



彩の国  
埼玉県

# 人権教育学習指導案集

～平成27年度の実践～

埼玉県教育局市町村支援部人権教育課

# 刊行に当たって

自己的人権を守り、他者の人権を守ろうとする意識・意欲・態度を育むためには、人権に関する知的理解を深めるとともに、人権感覚を育成することが重要です。「人権教育学習指導案集～平成27年度の実践～」は、平成27年度に文部科学省・埼玉県教育委員会の委託を受けた人権教育総合推進地域及び人権教育研究指定校と、県内で優れた実践研究に取り組まれた学校の人権教育学習指導案をもとに当課が編集したものです。この学習指導案集には、下記の学校が研究主題や人権教育上の課題を解決するために、各々の地域や各学校の実態を踏まえながら研究に取り組まれた多くの実践が掲載されております。

当課が作成した「人権感覚育成プログラム（学校教育編）」（平成20年3月）、「人権感覚育成プログラム（社会教育編）」（平成21年3月）、「人権教育資料～指導実践の手引～」（平成22年3月）、「人権感覚育成プログラム増補版（学校教育編）」（平成25年3月）につきましては、各学校の御理解と御協力により、多くの学校で活用していただいております。各教科や道徳、特別活動、総合的な学習の時間等で、人権教育の視点に基づいた授業を実践する際に本書と併せて活用し、各校の実態に応じて人権教育を積極的に推進していただきますことを期待しております。

結びに、本書の刊行にあたり、学習指導案を御提供いただきました各学校及び関係各位に対しまして、厚くお礼を申し上げます。

平成28年3月

埼玉県教育局市町村支援部人権教育課長  
長谷川 雄一

## 人権教育学習指導案の提供校

〈小学校〉	久喜市立栢間小学校 白岡市立菁莪小学校 日高市立高萩北小学校 長瀨町立長瀨第一小学校
〈中学校〉	白岡市立菁莪中学校
〈高等学校〉	伊奈町立南中学校 県立蓮田松韻高等学校

# 目 次

○ 「人権教育上のねらい・視点・配慮」の指導案への記入について	1
○ 学習指導案の記述例と留意点	2
1 小学校第1学年 道徳学習指導案 主題名 「生命の誕生」	4
2 小学校第2学年 道徳学習指導案 主題名 「あたたかい心で」	9
3 小学校第2学年 体育科学習指導案 単元名 「ねらって!とばして!なかよくボールゲーム!!」	13
4 小学校第3学年 道徳学習指導案 主題名 「みんな友だち」	18
5 小学校第4学年 体育科学習指導案 単元名 「跳び箱運動」(器械運動)	23
6 小学校第5学年 算数科学習指導案 単元名 「面積の求め方を考えよう」	27
7 中学校第1学年 学級活動学習指導案 題材名 「自分を見つめて」～新しい大陸に向けた航海～	32
8 中学校第2学年 社会科学習指導案 単元名 「ヨーロッパ人との出会いと全国統一」(兵農分離と朝鮮出兵)	36
9 高等学校第3学年 在り方生き方教育学習指導案 主題名 「集団の意義・役割・責任」	41

## 「人権教育上のねらい・視点・配慮」の指導案への記入について

学習指導案は「人権教育上のねらい・視点・配慮」の内容項目を設け、次のとおり作成しています。

<p>人権教育上のねらい</p>	<p>学校教育目標や人権教育目標を達成するために、各教科等において人権教育を推進していく上で、人権課題別に各単元や一単位時間の中で目指すこと。</p> <p>( ) 内に人権課題を明示する。</p> <p>例 (女性) (子供) (障害のある人) (高齢者) (同和問題)</p> <p>(普遍的な課題「生命尊重」)</p> <p>(その他の課題「プライバシーの侵害等」)</p>
<p>人権教育上の視点</p>	<p>「人権教育上のねらい」の達成を目指し「法の下での平等」、「個人の尊重」といった人権一般の普遍的な課題に対する取組や具体的な個別の人権課題に対する取組の中で、児童生徒に身に付けさせたい知識・技能・態度のこと。</p> <p>【知識・技能】&lt;例&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各人権課題に関する正しい知識</li> <li>○ 情報を的確に収集し、合理的に理解し、活用する力</li> <li>○ 豊かな感性や想像力、共感的に理解する力</li> <li>○ 非攻撃的自己主張の技能</li> <li>○ コミュニケーションの技能</li> <li>○ 人間関係を調整する技能</li> <li>○ 解決に向けた実践力やそのための技能</li> </ul> <p>【態度】&lt;例&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人間としての尊厳や自尊感情を大切にする態度</li> <li>○ 異なる文化を受容したり、違いを認めたりする態度</li> <li>○ 正義と公正を尊ぶ態度</li> <li>○ 課題解決に向けた意欲・実践的な態度</li> </ul>
<p>人権教育上の配慮</p>	<p>「人権教育上の視点」に示した知識・技能・態度を身に付けさせるための教師による具体的な手立て（指示、説明、資料提示など）のこと。具体的な手立てを「◎」などの記号で明示し、記入する。</p> <p>※「わかりやすくゆっくり話す」や「友達の話をよく聞く」等の学習一般の配慮事項を記入するものではない。</p>

# 学習指導案の記述例と留意点「道徳学習指導案の例」

様式は「埼玉県小・中学校教育課程編成要領」（平成21年3月 埼玉県教育委員会）参照

道徳学習指導案			
1	主題名	.....	
2	資料名	.....	
3	主題設定の理由		
	(1)	ねらいとする道徳的価値について	
	(2)	児童生徒の実態について	
	(3)	資料について	
4	ねらい	.....。〈学習指導要領「道徳」を基に記述〉	
5	人権教育上のねらい（子供）	将来、人権を保障する共生社会の担い手となれるよう、 自他を尊重する精神を養う。	
6	人権教育上の視点		
	(1)	「児童の権利に関する条約」に保障された子供の権利について知識を持つとともに、いじめなど身の周りの問題の不当性を理解する。	(知識)
	(2)	互いに伝え合い、わかり合うためのコミュニケーションの能力を高める。	(技能)
7	展開	◎人権教育上の配慮	
	段階	学習活動	主な発問と予想される児童生徒の反応
	1	.....	.....
	2	.....	◎「条約」と「いじめ発生件数」の資料を提示し、現状を認識させる。
	3	.....	.....
	4	.....	◎アサーティブトレーニングを取り入れ、相互尊重のコミュニケーションスタイルを学ばせる。
	5	.....	.....
8	評価		

← ポイント1

1 }  
2 }  
3 } ← ポイント1  
4 }  
6 }  
7 }

← ポイント2

← ポイント3

← ポイント2

← ポイント4

← ポイント2

← ポイント5

← ポイント5

人権教育上のねらい }  
人権教育上の視点 } ← ポイント6  
人権教育上の配慮 }

・ポイント1・・・学習指導案は、各教科、道徳、特別活動、外国語活動、総合的な学習の時間の様式を原則とし「ねらい」は、学習指導要領を基に記述する。

・ポイント2・・・学習指導案に「人権教育上のねらい・視点・配慮」の項目を設けて記述する。

- |  |
|--|
| 5 人権教育上のねらい（子供）……（ ）内に人権課題を明記する。<br>6 人権教育上の視点<br>◎ 人権教育上の配慮 |
|--|

・ポイント3・・・本時授業で解決を目指す人権課題を「人権教育上のねらい」に明示する。

将来、人権を保障する共生社会の担い手となれるよう、自他を尊重する精神を養う。
--

・ポイント4・・・「人権教育上のねらい」に明示した人権課題を解決するために必要な知識・技能、態度を「人権教育上の視点」として記述する。

- |   |
|---|
| (1) 「児童の権利に関する条約」に保障された子供の権利について知識を持つとともに、いじめなど身の周りの問題の不当性を理解する。<br>(2) 互いに伝え合い、わかり合うためのコミュニケーションの能力を高める。 |
|---|

・ポイント5・・・「人権教育上の視点」に示した知識・技能、態度を本時の展開の中で身に付けさせるための具体的な手立てを「人権教育上の配慮」として記述する。

- |   |
|---|
| ◎「条約」と「いじめ発生件数」の資料を提示し、現状を認識させる。<br>◎アサーティブトレーニングを取り入れ、相互尊重のコミュニケーションスタイルを学ばせる。 |
|---|

・ポイント6・・・「人権教育上のねらい・視点・配慮」の内容が整合するとは、本時で扱う人権課題の解決に必要な知識・技能、態度が身に付くような具体的な手立てがなされていることがはっきりと示されていることを意味している。

# 1 小学校第1学年 道徳学習指導案

1 主題名 生命の誕生「内容項目3－(1) 生命尊重」

2 資料名 大切なたからもの（出典：埼玉県道徳教材資料集「きょうもげんきに」）

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

本主題は、内容項目3－(1)「生きることを喜び、生命を大切にすることをねらいとしている。この内容項目は、生命の大切さに関するものであり、生命のあるすべてをかけがえのないものとして尊重し、大切にすることを育てようとするものである。これは、中学年の3－(1)「生命の尊さを感じ取り、生命あるものを大切にする。」高学年の3－(1)「生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重する。」につながっていく。

低学年の児童には、具体的な出来事や経験を通して、自他の生命の大切さを理解させながら、生きている証や喜びを実感させることで、生命の大切さを自覚させることが求められている。「大切なたからもの」は、低学年の児童でも身近な経験である兄弟の誕生を通して、生きる喜びを感じ取らせるとともに、生命の大切さに気付かせ、自分や他の生命を大切にすることを育てたいと考え、本主題を設定した。

(2) 児童の実態について

本学級は、兄や姉のいる児童が4名、弟や妹のいる児童が2名、上にも下にも兄弟のいる児童が1名、兄弟のいない児童が1名からなる。兄弟のいる児童は、兄弟の仲がよく一緒に遊んだり面倒をみたりしていることが多いようである。兄弟や家族どのかかわり合いの中で生命の大切さを認識している。

アンケート結果によると、8名の児童全員が「家族は大切である」と回答した。また「自分の命は大切である」と回答した。しかし、なぜ自分の命が大切なのか聞いてみると「命がなかったら自分が生きていないから」「命がないと死んでしまうから」「命がないと遊べないから」など、自分のための命ととらえている児童がほとんどであった。そこで、本授業を通して、自分の命の尊さに気付かせるとともに、他者の命も大切なものであることを考えさせたい。また「自分の名前の由来を聞いたことがない」と回答した児童は4名であった。保護者からの手紙を通して、命は自分のためのものではなく、家族や周りに愛されている大切なものであることにも気付かせたい。

(3) 資料について

本資料は、主人公「春人」の心の変化を中心に展開している。生まれたばかりの弟に会うことを楽しみにしていた主人公の春人は、弟をだっこしながら嬉しそうに話しかける。しかし、弟の誕生を喜ぶ両親の様子を見ていると、弟が羨ましいと思う。お母さんやお父さんの言葉から、自分も父母や家族に祝福されて生まれてきて、家族の願いが込められた名前をもらったことに気付く。その後、両親からふたりともたからものと言われて、弟が自分の「いちばんのたからもの」と思えるようになってきたという内容である。

ここでは、弟も自分も家族にとって「大切なたからもの」であると知り、喜びを実感する

までの主人公の心の内をつかませ、弟が「いちばんのたからもの」と気付く主人公の心を十分に話し合いたい。終末で保護者からのメッセージを読むことにより、主人公から離れて自分たちにも大切な名前がつけられていることに気付かせるとともに、児童一人一人の命が父母や周りの人たちに大切にされていることを実感させる。そして、かけがえのない生命の尊さを知り、自他の生命を大切にすることを育てていきたい。

4 人権教育上のねらい（普遍的な課題「生命尊重」）

生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重しようとする態度を養う。

5 人権教育上の視点

- (1) 赤ちゃんの誕生は、家族にとっての大きな喜びであることに気付く。（知識）
- (2) かけがえのない自他の生命を大切にしようとする態度を身に付ける。（態度）

6 生命尊厳の評価規準

知識 (知識的側面)	価値 (価値・態度的側面)	技能 (技能的側面)
命の大切さや命あるものはすべて支えあい、かけがえのないものであることを理解している。	自分の命を大切にし、また、他者の命をも尊重する態度を身に付けている。	命あるものの鼓動やぬくもりを感じとることができる。

7 本時の学習指導

(1) 本時のねらい

生きることを喜び、自他の生命を大切にしようとする態度を育てる。

(2) 展開

◎人権教育上の配慮

	学習活動・主な発問	予想される児童の反応	指導上の留意点(・) 評価(☆)
導入 5分	1 アンケートをもとに命について話し合う。 ・みんなにとって、命とはどういうものですか。	・大切なもの。 ・体の一部で一番大切なもの。	・「命」について話し合い、ねらいとする価値にせまる。
展開 35分	2 資料「大切なたからもの」について知る。		
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【登場人物】 ぼく（春人）、弟（広人）、お父さん、お母さん</p> <p>【条件・状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ぼく（春人）に弟が生まれた。</li> <li>・弟に会いに行く日、思わずスキップをした。</li> <li>・両親からたからものと思われている弟をうらやましく思い、下を向いてしまう。</li> </ul> </div>		



展 開 35 分	3 教師の範読を聞く。 ・主人公の気持ちを考えながら聞きましょう。		・主人公の気持ちが伝わるように、ゆっくりと丁寧に読む。
	4 主人公の気持ちを中心に話し合う。 (1) 生まれて間もない弟に会いに行き、おそるおそるだっこさせてもらったぼくはどんな気持ちでしょうか。 (2) お父さんとお母さんがうれしそうに話しているときに、下を向いていたぼくはどんな気持ちでしょうか。 (3) お母さんたちに、ぼくも弟も「たいせつなたからもの」と聞いたぼくは、どんな気持ちになったのでしょうか。 (4) 弟のことを「いちばんのたからもの」と思ったぼくは、どんな気持ちから元気がもりもりわいてきたのでしょうか。	・かわいいな。 ・うれしいな。 ・いっぱい遊んであげるね。 ・元気に生まれてきてよかった。 ・会いたかったよ。 ・うらやましいな。 ・お父さんとお母さんに「たからもの」って言われていいな。 ・ぼくより広人の方が大切なかもしれない。 ・ぼくは「たからもの」じゃないのかな。 ・ぼくも「たからもの」でよかった。 ・うれしい。 ・お父さんもお母さんもぼくを大切に思ってくれているんだ。	・無事生まれてよかったという喜びの気持ちと、いとおしさを十分出させる。 ・弟が生まれた喜びに共感させるとともに、小さな命の尊さを考えさせる。 ・弟の誕生を喜びながらも、両親の様子を見てうらやましくなってしまう、やきもちをやってしまう主人公の気持ちに共感させる。 ・自分の誕生も家族や周りの人に祝福され、家族の願いが込められた名前をもらったことに気付かせる。 ・弟と自分が同じように大切にされていることを知った主人公の喜びに共感させる。 ◎弟の誕生を喜び、その命がかけがえのないものであることに気付く主人公の心を十分話し合わせ、ねらいに迫る。 ☆主人公の気持ちを深く考えることができたか。 【発言・観察】

展開 35分	<p>5 保護者からの手紙を読む。</p> <p>6 自分を見つめ、これからどのように生活していきたいか考えて書く。</p> <p>・手紙を読んで思ったことや「命」について考えたことを書きましょう。</p>	<p>・自分もお父さんやお母さんに大切にされているんだな。</p> <p>・みんな大事な命なんだな。</p>	<p>・保護者からの手紙を一人一人に手渡す。</p> <p>◎保護者からの手紙を読み、生きていることや自分の命のすばらしさを感じ取らせ、これからの生き方について考えさせる。</p> <p>☆命は大切なものであり、自分だけでなく、他者の命も大切にしようとする気持ちを持つことができたか。</p> <p>【ワークシート・観察】</p>
終末 5分	7 詩を聞く。		<p>・詩を紹介し、自他の生命を大切に育てるとともに、実践につなげる。</p>

### 8 評価の観点

- ・主人公の気持ちに共感して発言できたか。
- ・生命の誕生のすばらしさを感じ、生命を大切にしようとする気持ちが芽生えたか。

### 9 板書計画

場面 絵  
4

- ・ たからものができてよかった
- ・ 生まれてきてくれてよかった
- ・ めんどろをみるぞ
- ・ いいお兄ちゃんになるぞ

ぼくにもたからものができたんだ

場面 絵  
3

- ・ うれしい
- ・ ぼくもたからものでよかった
- ・ ぼくを大事に思ってくれているんだ。

大切なたからものなの

場面 絵  
2

- ・ かなしい
- ・ ぼくは大切じゃないのかな
- ・ うらやましいな

下を向いていた

場面 絵  
1

- ・ かわいいな
- ・ うれしい
- ・ あったかいな

おそろおそろ弟をだっこ

大切なたからもの

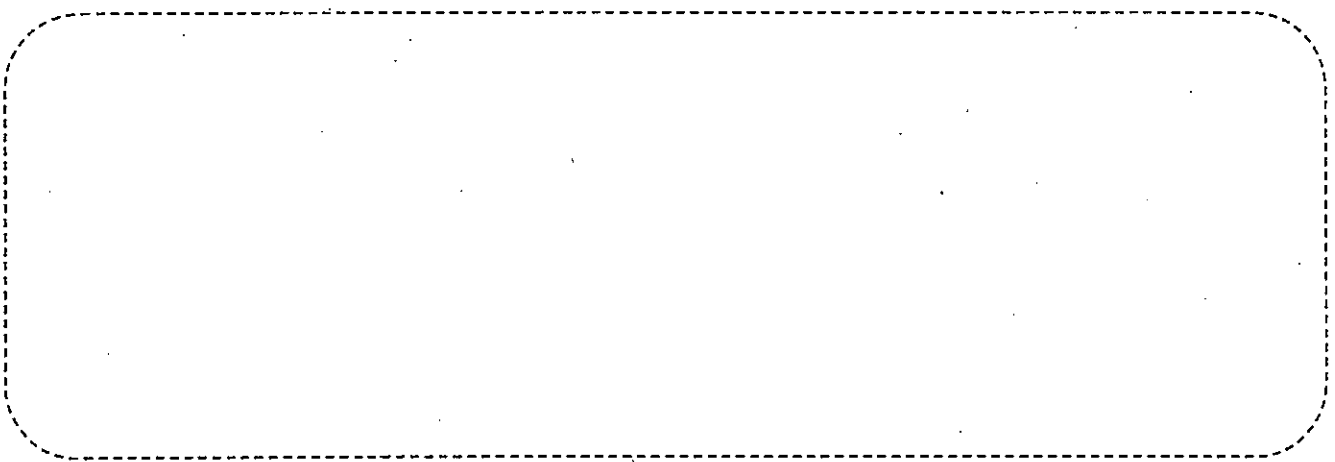
春人

弟 広人

# どうとくアンケート

なまえ \_\_\_\_\_

- ① おとうとやいもうとがいますか。                      はい ・ いいえ
- ② おにいちゃんやおねえちゃんがいますか。                      はい ・ いいえ
- ③ ともだちはたいせつだとおもいますか。                      はい ・ いいえ
- ④ かぞくはたいせつだとおもいますか。                      はい ・ いいえ
- ⑤ じぶんはたいせつだとおもいますか。                      はい ・ いいえ
- ⑥ じぶんのうまれたときはなしをきいたことがありますか。                      はい ・ いいえ



## 2 小学校第2学年 道徳学習指導案

1 主題名 あたたかい心で「内容項目2－(2)思いやり・親切」

2 資料名 ぐみの木と小鳥（出典：学研「みんなのどうとく」）

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

本主題は、内容項目2－(2)「幼い人や高齢者など身近にいる人に温かい心で接し、親切にする。」ことをねらいとしている。この内容項目は、他の人に接するときの基本的姿勢に関するものであり、相手に対する思いやりや親切な心を持ち、実践できる児童を育てようとするものである。

よりよい人間関係を築くには、相手を思いやる気持ちや親切は不可欠である。思いやりとは他人の喜び、悲しみ、痛み、苦しみを想像し、その気持ちが理解できるということである。この思いやりに根ざした行為が親切である。親切とは、自分の利害を考えず、困っている人や弱い立場に置かれている人に対して、その人の身になって考え、共にその弱さや困難を克服しようとする行動することである。そして、親切にすることによって相手も自分も、その行為を見ていた周りの人も温かい豊かな気持ちになるということを考えさせたい。また、生活科の「遊びランド」での幼児との交流や、毎日の登下校での地域や学校応援団の方との関わりなどを通して、親切な行為ができるように指導していきたい。さらに、友達や家族だけでなく、身近な人に対しても親切な行為ができるようにつなげていきたい。

(2) 児童の実態について

2年生になって、友達とのつき合いの幅が広くなり、深い関わり合いができるようになってきた。また、グループ活動や遊びの中で、周囲のことも考えられるようになってきた。しかし、自分の都合や楽しさの方を優先してしまい、相手のことに思いがけない児童もいる。本時のねらいに関するアンケート結果は次の通りである。

○今まで他の人に親切にしたことがありますか。

はい 8人      いいえ 15人

○どんな親切をしましたか。

友達	・手伝った。      ・のぼり棒がのぼれるように支えてあげた。 ・わからないところを教えた。
兄弟姉妹	・泣いていた妹をなぐさめた。      ・メダカの世話を手伝った。
家族	・洗濯物を一緒にたたんだ。
身近な人	・電車で席を譲った。

○その時の気持ちは・・・

・うれしかった。      ・ほかほかした。      ・いい気持だった。      ・楽しかった。

○今まで他の人から親切にされたことがありますか。

はい 5人      いいえ 18人

○どんな親切をしてもらいましたか。

友達	・鉛筆を拾ってもらった。
兄弟姉妹	・鉛筆を削ってもらった。
家族	・お母さんが心配してくれた。
身近な人	・席を譲ってもらった。

○その時の気持ちは・・・

・うれしかった。

児童に、思いやりや親切について説明をした後、アンケートを実施したが「親切をしたことも、されたこともない」と回答した児童が半数以上もいた。教師が意図的に呼びかければ親切にしてあげられるが、自発的にはなかなかできないのが実状である。また、誰かに親切にされても、相手の優しい気持ちに気付かず、感謝の気持ちを表せないこともあった。

本資料で思いやりの心を持つことや、親切にすることの大切さを通して、親切にする側もされる側も、温かい気持ちになることを感じとらせたい。

(3) 資料について

本資料は、ぐみの木がりすを案ずる気遣いを受けて、小鳥がりすを献身的に支え励ます物語である。話し合い①として、りすを気遣い心配するぐみの木の優しさに共感させ、一緒に心配する小鳥の気持ちをおさえる。話し合い②では、嵐がやむのを待ちながら少しでも早くりすを元気づけたい気持ちと、嵐の中を飛んでいく不安な気持ちを持つ小鳥の心の内を考えさせる。話し合い③では、テーマ発問として嵐の中を飛んでいった小鳥が、りすに何と言ったか考えさせる。ここでは、役割演技を取り入れてりすやぐみの木の気持ちに触れながら、考えを深めさせたい。

本資料を通して、親切がどれだけ相手の心や自分の心を温かくすることができるか気付かせるとともに、自分の近くに困っている人がいたら、進んで親切にすることができる態度を育てたい。

4 研究テーマに迫るための手立て

- (1) 紙芝居を使い、資料への興味・関心を持たせるとともに、挿絵やペープサートを活用し、小鳥の気持ちになって考えが深められるようにする。
- (2) テーマ発問として、嵐にもかかわらず来てくれた小鳥を思いやりりすの気持ちに触れ、ねらいに迫る。

5 人権教育上のねらい（普遍的な課題「思いやり・親切」）

相手の立場や思いに興味・関心を持ち、相手のことを考え、優しく接するとともに親切な行為ができるようにする。

6 人権教育上の視点

相手を思いやる主人公の心の内を考え、温かい心で接し親切にしようとする態度を育てる。  
〈態度〉

7 本時の学習指導

(1) 本時のねらい

身近な人を思いやり、温かい心で接し親切にしようとする態度を育てる。

(2) 展開

◎人権教育上の配慮

段階	学習活動	予想される児童の反応	○指導上の留意点 ◆評価	分
導入	1 親切についてのアンケート結果を知る。	・親切にしたことがある人は少ない。 ・どんなことが親切なのか。	○親切な行為に関心を持たせ、ねらいとする価値へ方向付ける。	3分
展開	2 登場人物、条件・状況を知る。		○条件・状況をおさえる。 ○小鳥とりすは、仲良しの友達ではないことを押さえる。 ○挿絵を使いながら、ぐみの木の説明をし、概要をつかませる。	7分

	とらえる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物 ぐみの木、小鳥、りす</li> <li>・条件・状況 ぐみの木は、姿を見せないりすを心配していた。小鳥は、ぐみの木の代わりにりすのところへ行くと、りすは病気だった。翌日、小鳥は嵐の中をりすのところへ行こうかじっと考えていた。</li> </ul>		
展開	深める	<p>3 資料「ぐみの木と小鳥」の範読を聞き、心に残ったことを発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ぐみの木がりすを心配しているところ。</li> <li>・嵐の中、りすのところへ行ったところ。</li> <li>・りすが小鳥に「ありがとう」と言ったところ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎一人一人の意見を大切に、発表したことをまとめながら、話題の柱を決める。</li> <li>◆教師の範読を聞き、感想を持つことができたか。</li> </ul>
		<p>4 小鳥の心の変化を中心に話し合う。</p> <p>① りすを心配しているぐみの木と「様子を見に行きましょう」と言った小鳥はどんな気持ちだったでしょう。</p> <p>② 嵐がやむのを待ちながら、小鳥はどんなことを考えていたのでしょうか。</p> <p>③ 嵐の中、飛んでいった小鳥はりすにどんなことを言ったのでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ぐみの木さんはやさしい。</li> <li>・ぐみの木さんの代わりに、ぐみの実を届けよう。</li> <li>・りすさんは喜んでくれるかな。</li> <li>・ぐみの実を食べてくれるかな。</li> <li>・早く元気になってね。</li> <li>・ぐみの木さんも心配していたよ。</li> </ul> <p>【行かない】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あぶない。</li> <li>・けがをするかも。</li> <li>・この嵐では無理。</li> <li>・行くのはやめよう。</li> <li>・びしょぬれになってしまう。</li> </ul> <p>【行く】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・嵐の中をりすさんが待っている。</li> <li>・お腹がすいているだろう。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病気がひどくなってないかな。</li> <li>・早く元気になってもらいたい。</li> <li>・ぐみの実を持ってきたよ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○りすを気遣い、心配するぐみの木の優しさと、それに共感し、一緒に心配する小鳥の気持ちをおさえる。</li> <li>○目に涙を浮かべているりすを見て「では、またあした」と言った小鳥の気持ちをおさえる。</li> <li>○少しでも早くりすを元気づけたい気持ちと、嵐の中を飛んでいく不安な気持ちを持つ小鳥の心の内に共感させる。また、嵐の中、りすのところへ飛んでいくことを決心した小鳥の気持ちをとらえさせる。</li> <li>○嵐の中、病気のりすのために飛ぶ小鳥の深い思いやりに共感させ、小鳥が考えていたことを表現させる。</li> <li>○相手のことを考えた小鳥の温かい行動に、りすが感謝していることをつかませる。</li> </ul>

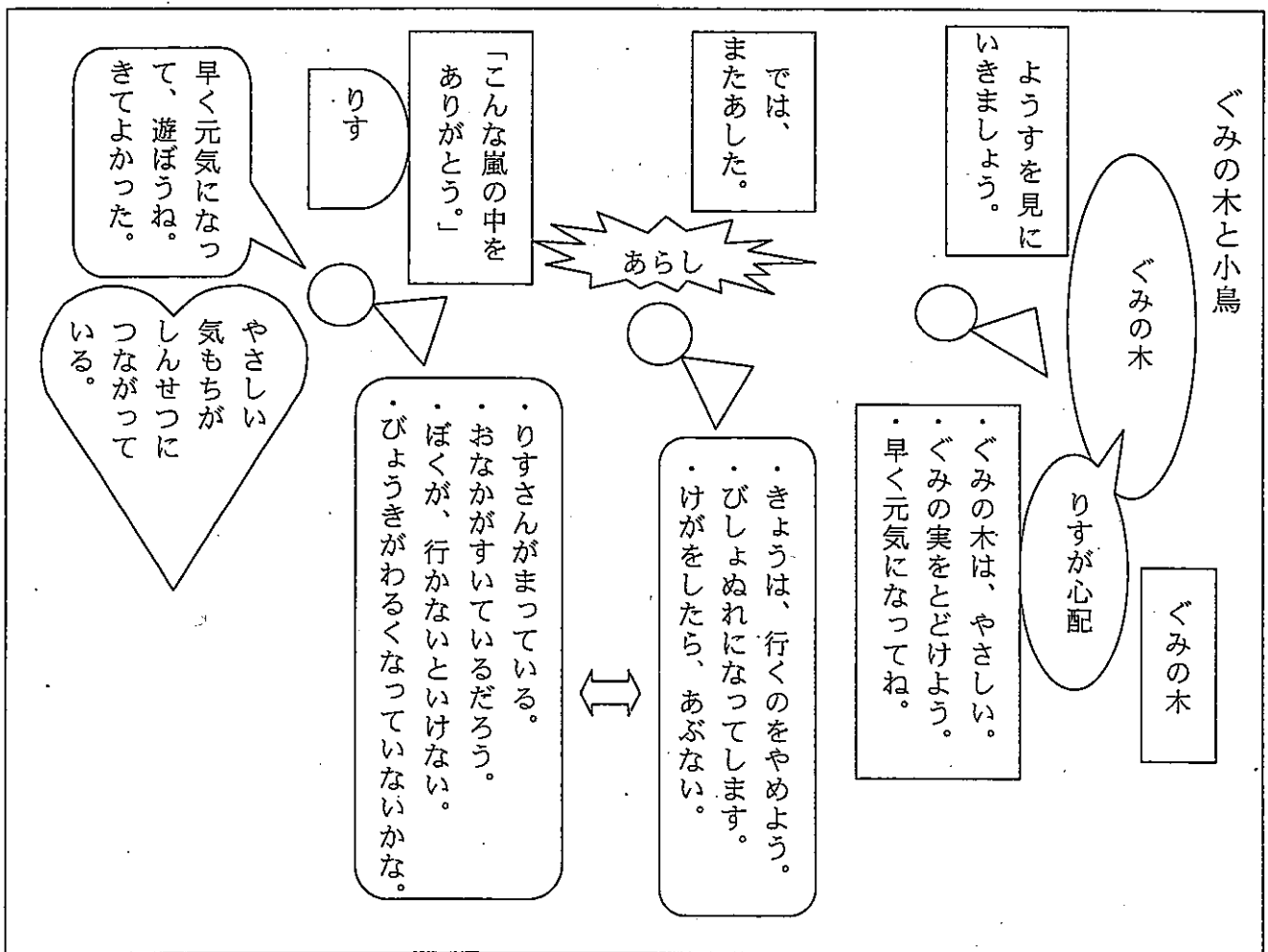
28分

展開	深める		<ul style="list-style-type: none"> <li>・早く元気になって遊ぼうね。</li> <li>・一人でさびしかったでしょう。嵐がやむまで一緒にいようね。</li> <li>・来てよかった。</li> </ul>		
	みつめる	5 「私たちの道徳」 P 6 6 を見て、親切な行動について話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おばあちゃんの荷物を持ってあげる。</li> <li>・小さい子とはゆっくり歩く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日常生活の場面を想定しながら、親切な行動について考え、自分ができることは何か、話し合わせる。</li> </ul>	5分
終末	まとめ	6 教師の話聞く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私も親切なことができるようになるう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○思いやりや親切の事例を紹介し、実践への意欲付けを図る。</li> </ul>	2分

8 評価の観点

身近な人を思いやり、温かい心で接し親切にしようとする意欲を高めることができたか。  
(観察・発言)

9 板書計画



### 3 小学校第2学年 体育科学習指導案

#### 1 単元名 ねらって!とばして!なかよくボールゲーム!!

#### 2 運動の特性

##### (1) 一般的特性

- ・ ボールを投げ当て、集団対集団で競い、仲間と力を合わせて勝敗を楽しむゲームである。
- ・ ボールを操作できる位置に動いたり、ねらったところにボールを投げたり、ボールが飛んでくるコースに入ったりするなど、攻守の動きを楽しむことができる運動である。
- ・ みんなで話し合っ、攻め方や守り方を考え、決めることができる楽しい運動である。

##### (2) 児童から見た特性

- ・ ボールを数多く投げ、的に当てる楽しさを味わうことができるゲームである。
- ・ 自分たちで攻め方や守り方についての話し合いを通して、遊びの中身を考えられる楽しい運動である。
- ・ 的にボールが当たらないと、つまらないと感じてしまうゲームである。
- ・ 自分たちの考えた作戦がうまくいかず、得点できないと楽しくない運動である。

#### 3 児童の実態

##### (1) 教師から見た実態

本学級の児童は、休み時間に男子はボール遊びや鬼遊び、女子は一輪車やのぼり棒、雲梯などで外遊びを楽しんでいる。また、男女の仲もよく、お互いに協力し合う態度も身に付いている。体育の授業においても「走る」や「踊る」など、全身を使った運動をたくさん行っても、弱音を吐かずにがんばることができ常に意欲的に取り組んでいる。しかし、マットや鉄棒、ボール遊びやボール運びなど道具を使う運動の領域では、道具をうまく扱えなかったり、動かし方を迷ったりしてしまい個人差が見られる。また、苦手意識を持ったり恥ずかしがったりする児童も数名いる。

ボール投げに関しては、学校として体力向上の取組から、毎時間準備運動の中に「どすこい投げ」を位置付け、投力向上を図ってきた。その成果として、横を向いて投げることや投げる側の肘を上げること、体重移動、投げない側の手の使い方など、少しずつではあるができるようになってきた。

##### (2) 運動・遊び等に関わる実態調査

体育が「好き」と答えた児童は7割であった。残りの3割の児童は、苦手な領域もあると回答した。ボール遊びについては、好意的にとらえている児童がいる一方で、投げたり捕ったりすることを苦手としている児童もいる。また、上手な子と比べて自分は劣っていると感じている児童もいる。

##### (3) 本年度の新体力テストの結果

本学級の児童の体力は、男子は全て県平均値を上回り、女子は握力が僅かに県平均値を下回っているが、体力テストの結果は比較的高い学級である。ボール投げの学級平均値は、県平均値を超えてはいるものの、男女とも投げ方には改善の余地がある。また、個人差も大きいため、個に応じた指導を丁寧に行っていく必要がある。



#### 4 指導観

楽しく授業を行うために、「どのチームも勝てる機会（あるいは得点できる機会）を設ける」ことや「友達や教師からたくさん声をかけられたり、声をかけあったりする（自己有用感につながる）」ことを大切にしていきたい。また、態度の面では「ミスした人を責めない」や「文句を言わない」ことなど、相手の気持ちを考えながらみんなで協力して力いっぱい活動することを大切にしていきたい。

##### (1) 学校研究主題との関連

「まごころをつくしあい、みんな仲よく、たゆまず学び続ける児童の育成」  
～自他の大切さを実感できる授業と教育環境の整備充実を通して～

- まごころをつくしあう子：人権を大切にし、伝えられる児童  
→「ありがとう」「ごめんなさい」を言える児童
- みんな仲のよい子：自他の人権を認められる児童  
→自分や友達のよさを見つけられる児童
- たゆまず学び続ける子：常に人権を大切にした行動ができる児童  
→友達と仲よく活動し続ける児童

##### (2) 研究の仮説と手立て

- ①児童の実態 ・有能感が低い。言動の強い子が数人いる。→【仮説1】  
・技能面で低位の児童が数人いる。→【仮説2】

##### ②仮説

【仮説1】＜児童同士での人権的配慮＞

グループ学習（仲間との教え合い）を行うことで、意欲的に学習に取り組むことができるであろう。

〈手立て①〉グループ毎にポイントをおさえた教え合い

〈手立て②〉児童同士の肯定的な声かけ

（チームのファイトコール、教師の声かけのモデリング、ハイタッチ、拍手、学級独自のもの）

〈手立て③〉ボールのなる木（友達のよいところを見つけよう）

〈手立て④〉診断的授業評価や形成的授業評価

（友達や自分がどんな言葉をかけたかの分析）

【仮説2】＜教師による人権的配慮＞

児童の実態や投力の特性をふまえ、学習の場や学習資料を工夫すれば、児童一人一人の技能を伸ばし、自信を持つことができるであろう。

〈手立て①〉教具の工夫を取り入れた慣れの運動を単元の中に帯状に設定する。

〈手立て②〉学習資料や教具の工夫

（技のポイントをふまえたカード作成や投力を向上させる方法）

〈手立て③〉場や学習過程の工夫

（慣れの運動、きりりタイム、ゲームをスムーズに行う場の工夫）

## 5 単元の目標

- (1) ルールを守り、仲よくゲームを行うとともに、勝敗を素直に認めることができるようにする。【関心・意欲・態度】
- (2) 運動のやり方を知り、ゲームの規則や攻め方を工夫することができるようにする。【思考・判断】
- (3) ゲームをするために、簡単な動きやボールの基本的な操作ができるようにする。【技能】

## 6 人権教育上のねらい（普遍的な課題「人間関係づくり」）

友達のよさや違いを認め合い、互いに助け合う中で、人間関係の基本的な在り方を身に付ける。

## 7 人権教育上の視点

- (1) お互いに伝え合い、わかり合うためにコミュニケーション能力を高める。（技能）
- (2) お互いのよさや違いを大切にし、共通の目標に向かって努力する態度を育てる。（態度）

## 8 単元の評価規準

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
運動に進んで取り組むとともにゲームの勝敗を受け入れて仲よく活動したり、友達のよい動きを参考にしたりしている。	簡単なゲームの攻め方を工夫している。	ゲームを楽しく行うための簡単なボール操作や、動きができる。

## 9 単元計画

### (1) ボールゲームの取り上げ方

	第1学年	第2学年
ボール投げゲーム	6時間	8時間
ボールけりゲーム	8時間	6時間
ボール遊び	3時間	3時間

### (2) 指導計画（8時間扱い 本時7／8時）

時間	1	2	3	4	5	6	⑦	8
5	集合・挨拶・健康観察・準備運動							
15	慣れの運動 (なかよしタイム)		慣れの運動1 (なかよしタイム) 〔1人で〕投げ上げて捕る。床にバウンドさせて捕る。 〔2人で〕キャッチボール(転がす、ワンバウンド、ノーバウンド)					
20			慣れの運動2 (なげなげタイム) (シャトル投げ、的当て、コート全面)					
40	なげなげタイム	はしごドッジゲーム	はしごドッジゲーム ゲームⅠ→ゲームⅡ→きりりタイム→ゲームⅢ→ゲームⅣ (攻め方) 転がし、バウンドあり、ノーバウンド ※単元後半にゲーム時間を増加する。					
	学習のまとめ・片付け・整理運動・挨拶							

(3) 評価計画

時	重点・観点	学習活動に即した評価規準	評価の場面	評価の方法
1	関心・意欲・態度	・楽しみながらボール操作をしている。 ・用具を安全に使っている。	オリエンテーション	観察
2	運動の技能	・投げる、捕るなどの動作ができる。	オリエンテーション	観察・カード
3	関心・意欲・態度	・友達のよい動きをまねしようとしたり、参考にしようとしたりしている。	きらりタイム	観察・発言
4	思考・判断	・ボールを投げる方向やボールを捕る位置を考えたり、見つけたりしている。	はしごドッジゲーム	観察・カード
5	運動の技能	・ねらったところに上手投げでボールを投げるができる。	はしごドッジゲーム	観察・カード
6	関心・意欲・態度	・勝敗の結果を受け入れて、友達と仲良く活動しようとしている。	はしごドッジゲーム	観察・カード
⑦	運動の技能	・捕ったり投げたりするボール操作や、ボールを持たないときの動きがとれる。	はしごドッジゲーム	観察・カード
8	思考・判断	・ゲームの中での動き方を知り、攻め方を見つれたり当て方を考えたりしている。	はしごドッジゲーム	観察・カード

10 本時の学習指導

(1) 本時のねらい

基本的なボール操作や、次の動きを予測した行動がとれる。【技能】

(2) 準備

- ・ 掲示資料 ・ 掲示黒板 ・ ビブス4色（赤、白、青、黄） ・ シール ・ 得点表 ・ 笛
- ・ ボール ・ ストップウォッチ ・ CD ・ CDラジカセ ・ 的 ・ ネット ・ シャトル

(3) 展開

◎人権教育上の配慮

段階	学習内容・活動	指導上の留意点 (○指導 ◆評価規準 △努力を要する児童への手だて)
導入 18分	1 集合、整列、挨拶、健康観察をする。	○素早く集合・整列させ、元気のよい挨拶で始める。 ○全員の顔色や姿勢等を見て健康観察を行う。その際、身支度の乱れも確認する。
	2 準備運動・慣れの運動をする。 ①（なかよしタイム） ②（なげなげタイム） 〈なかよしタイムの内容〉 〔1人で〕 ・ 投げ上げて捕る。 ・ 床にバウンドさせて捕る。 〔2人で〕 ・ キャッチボール （転がす、ワンバウンド、ノーバウンド）	○本時の運動に必要な部位を意識させながら、準備運動させる。 ○1つ1つの動きをリズムカルに行わせ、十分に全身がほぐれるようにする。 ○単元を通して、動き方やボール操作に技能の向上が見られたところを具体的に称賛する。 △壁までボールを当てることのできない児童には、投げ出すときの体の向きや、非利き手側の足でラインをまたいで投げるなど具体的な指示を出したり、教師や他の児童の見本を参考にさせる。 ○動きが雑にならないように、ねらいを確認してから始めさせる。

	<p>(なげなげタイムの内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各30秒間ずつ2回</li> <li>①シャトル投げ</li> <li>②的当て</li> <li>③コート全面</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○遠くからでも、相手陣地にボールをたくさん投げ入れることができる児童を称賛し、自信をつけさせる。</li> <li>△「相手の頭を越すように投げよう」「助走をつけて投げてみよう」など、具体的に助言する。</li> <li>○ボールは、ゆずりあって使うように声かけをする。</li> </ul>
展開 20分	<p>3 本時のねらいを知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>たくさんなげて、とって、よけて、ゲームをたのしもう！</p> </div> <p>4 はしごドッジゲームをする。</p> <p>(活動内容)</p> <p>ゲーム① 1分30秒×2</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>ゲーム② 1分30秒×2</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>きらりタイム</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>ゲーム③ 1分30秒×2</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>ゲーム④ 1分30秒×2</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ルールを確認し、ルールを守って行うことを伝える。</li> <li>○多くの児童の見本になるよい投げ方や素早い動き、ボールのよけ方、よける位置を考えて行動している児童を称賛する。</li> <li>◎きらりタイムで実演した友達を称賛させ、後半のゲームの参考にさせる。</li> <li>○後半のゲームで、友達のよい投げ方や動きを取り入れている児童を称賛する。</li> <li>◆基本的なボール操作や、次の動きを予測した行動ができる。</li> </ul> <p>【努力を要する児童への手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>△ボールを持ったらずくに投げさせる。</li> <li>△ボールにすぐ当たってしまう児童には、コート内で立つ位置を考えさせる。</li> <li>△ボールを後逸してしまう児童には、ボールが飛んでくる位置を考えさせる。</li> </ul> <p>【十分満足できると判断できる児童への手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○仲間が捕りやすいボールを投げるなど、次の攻撃に生かすことができるような投げ方をさせる。</li> <li>○パスを回しながらシュートするなど、味方と連携した攻撃方法を考えさせる。</li> </ul>
	整理 7分	<p>5 学習カードに記入し、本時のまとめをする。</p> <p>6 用具の片付けをする。</p> <p>7 整理運動をする。</p> <p>8 挨拶をする。</p>

## 4 小学校第3学年 道徳学習指導案

1 主題名 みんな友だち「内容項目2－(3)友情・信頼、助け合い」

2 資料名 明るくなった友だち（出典：学研「みんなの道徳」）

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

本主題は、内容項目2－(3)「友達と互いに理解し、信頼し、助け合う。」ことをねらいとしている。これは、低学年の内容項目2－(3)「友達と仲よくし、助け合う。」を受け、さらに高学年の内容項目2－(3)「互いに信頼し、学び合って友情を深め、男女仲よく協力し助け合う。」と深く関わる内容である。

信頼は人間生活を結び付ける絆であり、社会生活を成立させる基本である。学校生活においても、自分のことをよくわかってくれる友達がいることで心が安定し毎日が楽しくなる。助け合い、励まし合うことで関わりが深くなり、友情や信頼が強くなるのである。本主題を通して、真に信頼し合える仲間づくりができる児童の育成を図りたい。

(2) 児童の実態について

本学級は、明るく素直で、男女問わず仲よくできる児童が多い。全体的に交友関係や行動範囲が広がり、集団での行動を好むようになってきている。仲間意識が芽生え、友達の大切さも理解できるようになってくる時期である。そのため、気の合う仲間同士では、よく遊んだり一緒に行動したり、気にかけてたりすることがある。しかし、それほど気の合わない相手に対しては、遊びの中に入れなかったり、相手の立場を考えない言動をしたり、自分の利害に基づく衝突が強くなることも見られた。また、困っている相手に声をかけない、かけられない場面も見られた。

本学級の児童が、友達についてどのような考えを持っているのか把握するために、アンケートを実施した。アンケート結果は、以下の通りである。

①友達の気持ちを考えることができる。

できる	まあまあできる	あまりできない	できない
9人	9人	4人	0人

②友達に優しい言葉で話している。

できる	まあまあできる	あまりできない	できない
11人	11人	0人	0人

③友達と協力できる。

できる	まあまあできる	あまりできない	できない
16人	4人	2人	0人

④誰とでも仲よくできる。

できる	まあまあできる	あまりできない	できない
14人	6人	1人	1人

⑤友達にはよいところがたくさんあると思う。

ある	まあまあある	あまりない	ない
18人	4人	0人	0人

⑥友達の気持ちを考えて話が聞ける。

できる	まあまあできる	あまりできない	できない
15人	5人	2人	0人

友達の気持ちを考えて優しく接したり、学校生活の中で協力したり、誰とでも仲よくできる児童が多い。その一方で、友達に関心がなく、気持ちを考えたり協力したりする意識が薄い児童もいる。友達のことを大切にしようとする心は育まれつつあるが、相手の気持ちになって考えたり、行動したりする心はまだ十分育まれていない。今後の生活の中で、友達のことを互いによく理解し、信頼し、助け合おうという意欲を高めたい。

(3) 資料について

友達がおらず、仲間外れのようにになっている同じクラスの子が何日も欠席している。母に迎えに行くことを勧められた主人公は、その子と仲よくすることで、自分も仲間外れにされるのではないかという不安からいやだと言うが、母の「その子の立場に立ってごらん。とても苦しんでいるのがわかるでしょ。」という言葉が心にささり、決心して迎えに行く。その日は、その子は出てこなかった。迎えに行っているところを他の友達に見られて動揺するが、次の日も迎えに行き、一緒に登校することができた。これをきっかけに、その子はクラスのみんなと仲よくなり、明るくなった。

日常生活の中でも起こる可能性がある話であり、児童の生活経験を呼び起こしやすい資料である。友達が、明るく元気になるように助けてあげようとした主人公の気持ちを共感的にとらえさせ、助け合うことの大切さを考えさせたい。

4 研究テーマに迫るための手立て

- (1) 事前に記入した「わたしたちの道徳」やアンケートを活用する。
- (2) 話合い③をテーマ発問とし、主人公の考えを通して、勇気を持つことの大切さについて考えられるようにする。

5 人権教育上のねらい（普遍的課題「共感と連帯感」）

他者の立場や思いに興味・関心を持ち、仲間同士が共通の目的を目指して努力しようとする態度を育てる。

6 人権教育上の視点

主人公の心の内を考え、互いに意見を聞くことにより、勇気をもつことの大切さについて考えようとする。

友達のことを思いやり、互いに信頼して助け合おうとする態度を育てる。

7 本時の学習指導

(1) 本時のねらい

友達のことを思いやり、互いに信頼して助け合おうとする態度を育てる。

(2) 展開

◎人権教育上の配慮

段階	学習活動と主な発問	予想される児童の反応	○指導上の留意点 ◆評価	分
導入	1 事前アンケートの結果を知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分と同じ意見だ。</li> <li>多くの意見がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達の意見を知り、よい雰囲気の中で授業が始められるようにする。</li> </ul>	3分
展開	2 登場人物、条件・状況について知る。	<p>登場人物 主人公「わたし（千緒）」 友達・お母さん</p> <p>条件・状況 同じクラスの子が何日も学校を休んだ。先生が困って、私たちに話した。足のけがだけが休む理由ではないようだった。</p>		8分
	3 資料「明るくなった友だち」の範読を聞き、友達と話し合いたいところを発表する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>先生から休んでいる子の話を聞いたとき。</li> <li>お母さんに迎えに行つてあげるといいねと言われたとき。</li> <li>お母さんの言葉が心にささり、迎えに行こうと決心したとき。</li> <li>みんなが仲間になってくれて、友達が明るくなったとき。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○主人公の気持ちを考えながら聞くように伝える。</li> <li>◎一人一人の意見を大切に似た意見が出たときは、話題を整理してまとめ、個々の意見を認める。</li> <li>◆自分なりに話し合いたいところが見つけれられたか。</li> </ul>	
	4 主人公の心の変化を中心に話し合う。 ①お母さんの助言に、いやだと言った主人公の気持ちを考えよう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>迎えに行ったら私も仲間外れになる。</li> <li>どうしたんだろう。かわいそうだけど…。</li> <li>どうして私が行くの。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○休んでいる子をかわいそうと思うが、迎えに行ったり遊んだりすると、自分も仲間外れになるのではと不安に思う心に共感させる。</li> </ul>	

展開	とらえる	②お母さんの言葉が心にささり次の日、迎えに行く決心をした主人公の気持ちを考えよう。	・お母さんの言う通りだ。 ・一人で寂しがつているだろう。 ・私だったら迎えに来て欲しい。	○母の言葉から相手の気持ちを考える大切さに気付き、迎えに行く決心をした主人公の心の変化をとらえさせる。	8分
	深める	③みんなが仲間になってくれて、明るくなった友達を見て、主人公はどんなことを考えたのだろうか。	・みんなも仲間になってあげたかったんだ。 ・あの時思い切って迎えに行ってよかった。	○主人公が行動に移したことで級友の心が変わり、その子を明るくできたことをとらえさせる。 ○書く活動を取り入れ「友情、信頼、助け合い」について考えを深めさせる。 ◆友達と仲よく助け合うことのよさを理解し、よりよい友達でありたいという思いが高まったか。	26分
	見つめる	5 自分自身の生活をふり返る。	・自分自身の生活について、「私たちの道徳」P70を参考に発表させる。	○事前に児童の記述内容を確認し、指名する。 ◎友情・信頼、助け合いの価値を一般化し、実践意欲を高める。	5分
	終末	6 「友だち」の歌を歌う。		○歌詞の内容を考えながら歌わせ、余韻をもって授業を終える。	3分

#### 8 評価の観点

友達のことを思いやり、互いに信頼して助け合おうとする意欲が高まったか。

(観察、発言、ワークシート)



9 板書計画

明るくなった友だち

わたし(千緒) 友だち お母さん

むかえに行つてあげたら

その子の立ち場になつてごらん

場面絵①

- ・どうしたんだろう。
- ・かわいそうだけど…
- ・むかえに行つたら、わたしも仲間外れになる。
- ・どうしてわたしが行くの。

場面絵②

- ・お母さんの言う通りだ。
- ・一人でさびしがつてい
- ・るだろう。
- ・わたしだったら、むかえにきてほしい。

明るくなった友だち

場面絵③

- ・みんなも仲間になつてあげた
- ・かったんだ。
- ・あるとき、思い切つてむかえ
- ・に行つてよかった。

◎友だちとなかよく

## 5 小学校第4学年 体育科学習指導案

### 1 単元名 「跳び箱運動」 (器械運動)

### 2 運動の特性

#### (1) 一般的特性

- ①助走を生かして、いろいろな技で跳び箱を跳び越して楽しむ運動である。
- ②新しい技ができるようになると大きな喜びが得られる運動である。
- ③今できる跳び方で、いろいろな高さや向きで跳び越したり、新しい跳び方に挑戦したりする運動である。

#### (2) 児童からみた特性

- ①技ができるようになったり、より高く、より遠くへ跳べたりすると楽しい運動である。
- ②技を学ぶ過程で、友達との教え合いや進歩したことを認めてもらう等の関わりがあると、楽しくなる運動である。
- ③うまくなるコツが見つからず、練習しても技ができるようにならないと、楽しくない運動である。
- ④跳び箱から落ちたり、恐怖心があったりすると、楽しくない運動である。

### 3 児童の実態

- ①本学級の多くの児童は、運動に意欲的に取り組む。
- ②授業では、自分のめあてを立てて進んで運動に取り組むことができている。しかし、めあてが自分の能力に合わなかったり、めあての達成のために工夫して取り組むことができなったりする児童もいる。
- ③5月に実施した新体力テストでは、男女ともに県平均値を100% (16項目中16項目) 上回っている。このことから、体力は男女ともに比較的高い傾向にあると考えられる。

### 4 指導観

研究主題	自ら学び、積極的にコミュニケーションを図ろうとする子の育成 ～ 一人一人のよさが輝く 人権教育の推進 ～
------	---

#### 【研究の仮説】

- ①「自分の考えを持つ」児童を育成するために
  - ア 個人のめあてを明確に持てるよう、事前に学習カードに「技の名前」や「見てほしいポイント」を記入させる。また、演技の前には友達に大きな声で伝えることができるようにさせる。
  - イ 技のポイントが理解できるよう、学習カードや掲示物、映像資料などを活用させる。
- ②「認め合う」児童を育成するために
  - ア ペアやグループで声をかけ合い、励まし合いながら練習し、どんな小さな伸びでも認め合い、喜び合えるよう、よい声かけやアドバイスをしている児童を称賛する。

イ 友達の努力に気付くことができるよう、学習の終末に「友達のがんばっていたこと」を  
発表させる。

ウ 友達と協力するよさに気付くことができるよう、学習の終末に「友達からのよい声かけ  
やアドバイス」を発表させる。

エ 友達のよさを受け入れることができるよう、よい発表やよい演技には拍手をさせる。

③「高め合う」児童を育成するために

ア よいアドバイスをしている児童を称賛し、その活動を広める。

イ 学び合いの学習ができるよう、等質グループと異質グループでの学習の場を設定し、友  
達に技のポイントについて具体的にアドバイスできるようにさせる。

ウ 自分の伸びや課題を実感できるよう、学習の終末にふり返りの時間を設け、自己評価を  
させる。

5 人権教育上のねらい（普遍的な課題「コミュニケーション能力」）

友達のよさを見つけ相手に伝える活動を通して、お互いのよさを認め合うことの大切さに気  
付き、人間関係づくりの基礎を身に付ける。

6 人権教育上の視点

- ・自分の気持ちや考えを相手にわかるように、適切に伝え合うことができる。（技能）
- ・友達との学び合いや対話を大切にし、物事をすすめようとする。（態度）

7 単元の目標

- (1) 跳び箱運動に進んで取り組み、きまりを守り仲よく運動したり、場や用具の安全に気付け  
たりできるようにする。【関心・意欲・態度】
- (2) 自己の能力に適した課題を持ち、技ができるように活動を工夫する。【思考・判断】
- (3) 自分の力に合った基本的な支持跳び越し技をできるようにする。【技能】

8 指導計画（8時間扱い 本時7／8時）

- |                             |     |
|-----------------------------|-----|
| (1) オリエンテーション               | 1時間 |
| (2) 基本的な技の習得を目指して運動を行う      | 2時間 |
| (3) 自分の力に合った課題を持ち、工夫して運動を行う | 4時間 |
| (4) 発表会                     | 1時間 |

9 本時の学習指導

- (1) 本時のねらい  
自分の力に合った基本的な支持跳び越し技をできるようにする。【技能】

(2) 展開

◎人権教育上の配慮

学習内容・活動	・指導上の留意点 ◆評価規準	時
1 集合・整列、挨拶、健康観察をする。 2 学習内容を確認する。 3 集団走を行う。 4 準備運動をする。 ・各部位の準備運動を一斉で行う。 (かえる倒立、コンパス、ブリッジなど含む)	・見学者を確認し、参加の仕方を指示する。 ・正しい姿勢の児童を称賛する。 ・本時の流れを短く、わかりやすく説明する。 ・友達と一緒に動く心地よさを味わえるように支援する。 ・意欲的な児童は、名前を呼び称賛し、全体の意欲向上を図る。 ・補強運動は、個々の能力に応じて、発展的な運動に取り組みさせる。	5分
5 グループ毎に協力して場の準備をし慣れの運動を行う。 (慣れの運動の例) ・馬跳び ・跳び上がり跳び降り ・腰上げ ・開脚跳び	・役割を決めておき、素早く準備させる。 ・児童の安全確認を見届ける。 ・正確に行っている児童を称賛し、よい動きを全体に広められるように声をかける。	5分
ねらい① 今できる技をみがこう		
6 ねらい①の学習内容と自分のめあての確認をする。 (めあて例) ・開脚跳びで、より遠くに安定した着地ができるようにする。 ・膝、つま先がしっかり伸びた大きな台上前転ができるようにする。 ・ねらい①の学習の場をつくる。 ・ねらい①の練習をする。	・演技の前には、友達に「技の名前」や「見て欲しいポイント」を、大きな声で伝えることができるようにさせる。 ・ペアやグループで声をかけ合い、励まし合いながら練習し、どんな小さな伸びでも認め合い、喜び合えるよう、よい声かけやアドバイスをしている児童を称賛する。 研究の仮説③イ ◎学び合いの学習ができるよう、異質グループでの学習の場を設定し、技のポイントを具体的にアドバイスさせる。 ◆自分の力に合った、基本的な支持跳び越し技ができる。(観察) ・自分に合った技を行っていない児童には、能力に適した技に挑戦するようアドバイスをする。	18分

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な支持跳び越し技ができない児童には、補助をしたり、スモールステップの場で技に挑戦したりするよう声をかける。</li> </ul>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">ねらい② できそうな技にチャレンジしよう</div>		
<p>7 ねらい②の学習内容と自分のめあての確認をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ねらい②の学習の場をつくる。</li> <li>・ねらい②の練習をする。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大きな開脚跳びで、体が水平になるようにする。</li> <li>・かかえ込み跳びで、より遠くに安定した着地ができるようにする。</li> <li>・大きな台上前転で、膝を伸ばした姿勢で着手する。</li> </ul> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演技の前には、友達に「見て欲しいポイント」を、大きな声で伝えることができるようにさせる。</li> </ul> <p>研究の仮説②ア</p> <p>◎ペアやグループで声をかけ合い、励まし合いながら練習し、どんな小さな伸びでも認め合い、喜び合えるようにしていくために、よい声かけやアドバイスをしている児童を称賛する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・技のポイントが理解できるように、学習カードや掲示物、映像資料などを活用させる。</li> </ul>	12分
<p>8 後片付けをする。</p> <p>9 整理運動をする。</p> <p>10 本時のまとめをする。</p>  <p>11 次時の予告を聞き、挨拶をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全に留意して素早く取り組むよう声をかける。</li> <li>・使った筋肉をほぐすようにゆっくり行う。</li> <li>・友達の努力に気付くことができるように、学習の終末に「友達のがんばっていたこと」を発表させる。</li> <li>・友達と協力するよさに気付くことができるように学習の終末に「友達からのよい声かけやアドバイス」を発表させる。</li> <li>・運動した充実感を大切に、元気よく、気持ちのよい挨拶で終わらせる。</li> </ul>	5分

## 6 小学校第5学年 算数科学習指導案

### 1 単元名 「面積の求め方を考えよう」

### 2 単元設定の理由

#### (1) 児童観

本学級の児童は、1学期には自分の考えを持ってでも発表を避けたり、わからないことを恥ずかしいと感じてわかるふりをしてしまったりする傾向が強く見られた。そこで、このような状況を改善するために「言葉と心をきたえる」という学級目標のもと、自分の心を表現するための適切な言葉を考え、わかりやすく伝える活動に取り組んでいる。また、声の出し方・話の聞き方・発表の仕方などの練習を続けている。

2学期に入り、授業に参加する能動的な意識が芽生え、わからないことも意思表示ができるようになってきた。しかし、相手に自分の考えを伝えることに対して、苦手意識を強く持つ児童はまだ多く、コミュニケーションをとることに対して、受動的な姿勢も未だに見られる。そこで学校行事等を通して、学級全体に「認め合おう」という雰囲気をつくることで、自己表現が苦手な児童も少しずつ授業に参加させていきたい。

算数の学習に対して、年度当初は苦手意識や抵抗感を感じる児童が多かったが、10月末に実施したアンケート結果では、37名中34名が算数を「好き・どちらかといえば好き」と回答した。その理由として最も多かったのは「わかったときの喜び」であり、全体の9割を占めた。また「みんなで授業を進めるのが楽しい」、「グループで発表し合うのが好き」という回答も多かった。これは授業進行を児童が中心となってい、児童同士で発表をつなげたり、わからない所を教え合ったりする活動に対して、楽しさや達成感を感じていることが大きく起因したと考えられる。このことは「学び合い」に関する質問で、35名の児童が「好き」と回答していることからわかる。しかし、図形の学習に対しては、半数弱が「どちらかと言えば嫌い・嫌い」と回答しており、図形の学習に重点をおく必要がある。

#### (2) 教材観

本単元は、学習指導要領には以下のように位置付けられている。

#### 第5学年 B量と測量

(1) 図形の面積を計算によって求めることができるようにする。

ア 三角形、平行四辺形、ひし形及び台形の面積の求め方を考えること。

本単元では、平行四辺形、三角形、台形、ひし形などの面積を既習の求積可能な図形に帰着して考えたり、それを説明したり、新しい公式をつくり出したり、それらを用いて計算で求めたりすることができるようにすることを主なねらいとしている。各々の公式について、公式をつくる過程と関連付けながら理解し、使えるようになることを重視する。その際、平行四辺形や三角形の高さは、底辺をどこにとるかによって決めること、底辺をどことっても面積は変わらないことを理解させることが重要である。平面図形の面積については、第4学年で長方形や正方形の面積の求め方を学習している。1cm<sup>2</sup>などの単位となる面積を決めてそれがどのくらいあるかを求めることで、広さを数値化して表すことを学習した。さらに、

長方形、正方形の面積の公式とともに、面積の保存性から、等積変形の考えについても、いろいろな形にわけて扱ったり、複合図形的面積を求めたりすることを通して扱ってきている。

これらの学習をもとに、三角形や平行四辺形などの面積の求め方を考えていく。まず、平行四辺形的面積について学習し、次に倍積変形や等積変形で、長方形や平行四辺形に帰着させて三角形の面積の公式を導く。そして、このような面積の求め方や図形の見方を生かし、台形やひし形的面積も、既習の求積可能な図形に変形し、公式づくりへつなげていく。

### (3) 指導観

本時では、既習の平行四辺形的面積を求める学習を活用して、三角形の面積の求め方を考え、説明できるようにしたい。面積の公式の理解や適用は大切であるが、面積の公式を教え込むのではなく、面積の求め方を考えることを大切にしたい。三角形の面積は、既習の長方形や正方形に変形して求めることが大切である。このように「既習内容に帰着して考えること」を児童に意識させ、そのよさに気付く授業を展開したい。

そのための手立てとして、既習事項をふり返る時間を毎時間の始めに設けた。前時とのつながり、前学年との系統性に気付かせることで、児童に既習事項を活用する習慣をつけさせたい。また、第4学年「垂直・平行と四角形」では、平行四辺形の図形概念や性質、書き方について学習し、さらに対角線概念や、四角形の分解・合成する操作活動について学習している。平行四辺形を分解・移動する場合、向かい合った辺の長さが等しいから移動できることや、向かい合った辺が平行であるから底辺に対して垂直に切っても高さが変わらないことなど、既習の図形の性質を根拠に筋道立てて考えていくことを重視する。

多様な考えを共有するために、グループや全体で話し合う活動に主体的に参加させたい。児童に主体的な学習を促すためには「児童一人一人が安心して発表ができる」場が必要である。聞き手と話し手が互いを認め合う場の設定が前提となるので、常に発表者の方へ体を向けたり発表内容に耳を傾けたりする姿勢を指導する。そして、発表内容の正誤にこだわらず、称賛する声かけを意識することが大切である。

## 3 単元目標

### (1) 算数への関心・意欲・態度

平行四辺形、三角形、台形、ひし形などの面積について、既習の面積の求め方に帰着させて考え、計算で求めようとする。

### (2) 数学的な考え方

既習の面積の求め方をもとに、平行四辺形、三角形、台形、ひし形などの面積の求め方を工夫して考え、公式をつくり出すことができる。

### (3) 数量や図形についての技能

公式を用いて、平行四辺形、三角形、台形、ひし形などの面積を求めることができる。

### (4) 数量や図形についての知識・理解

計算により、平行四辺形、三角形、台形、ひし形などの面積を求めることができる。

## 4 人権教育上のねらい（普遍的な課題「多様性の尊重・共生」）

他者の考え方や感じ方に違いがあることに気づき、受け入れることができる。

5 人権教育上の視点

- (1) 他者の考えや言動に興味・関心を持つとともに、他者の立場や心情を共感的に受容することができる。(技能)
- (2) 多様な考えを受け入れながら、よりよい解決の仕方を探ろうとしている。(態度)

6 指導計画 (12時間扱い 本時4 / 12時)

- (1) 平行四辺形の面積の求め方・・・3時間
- (2) 三角形の面積の求め方・・・・・・3時間
- (3) いろいろな面積の求め方・・・・・・4時間
- (4) 高さとの面積の関係・・・・・・1時間
- (5) まとめ・・・・・・1時間

7 本時の指導計画

(1) 本時のねらい

三角形の面積の求め方を考え、説明することができる。

(2) 展開

◎人権教育上の配慮

	学習活動	主な発問 (T) 学習リーダーの発言 (L) 予想される児童の反応 (C)	指導上の留意点 (・) 評価 (☆) 支援 (◆)
ふり返る	1 前時をふり返る。	L : 前回の学習内容をふり返りましょう。 C : 平行四辺形の面積を求めた。 C : 形を変えて面積を求めた。 C : 底辺×高さで求められる。	・既習内容のふり返りをする ことで、本時の学習につながり を持たせる。 ◆思い出せない児童はノートや 教科書でふり返らせる。
つかむ	2 本時の問題を知る。	L : 今日の問題に取り組みましょう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">三角形ABCの面積は何cm<sup>2</sup>でしょう。</div> L : 今までとの違いはありますか。 C : 前回は平行四辺形で今回は三角形の面積を求めるところです。	・教科書はまだ使用しない。
	3 各自で課題を考える。	L : 課題を考えましょう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">三角形の面積の求め方を考えよう。</div>	
	4 課題解決の見通しを持つ。	L : どんな方法で解けそうですか。 T : 今までの学習をふり返ろう。 C : 長方形なら求められる。 C : 平行四辺形でもできるよ。	・前時の平行四辺形の面積を 求める過程をふり返らせる。



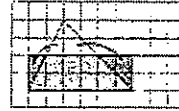
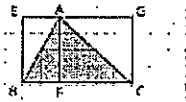
解  
く

5 自力解決する  
方法を考える。

C: ①長方形に見立てる。

【倍積変形】

【等積変形】



【式】  $4 \times 6 \div 2 = 12$

【式】  $2 \times 6 = 12$

【答え】  $12 \text{ cm}^2$

【答え】  $12 \text{ cm}^2$

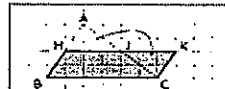
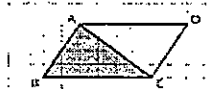
【考え方】  
長方形の面積を半分にする。

【考え方】  
長方形の面積に変える。

C: ②平行四辺形に見立てる。

【倍積変形】

【等積変形】



【式】  $6 \times 4 \div 2 = 12$

【式】  $6 \times (4 \div 2) = 12$

【答え】  $12 \text{ cm}^2$

【答え】  $12 \text{ cm}^2$

【考え方】  
平行四辺形の面積を半分にする。

【考え方】  
高さを半分にする。



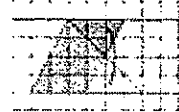
C: ③底辺を変える。

【式】  $4 \times 3 = 12$

【等積変形】

【答え】  $12 \text{ cm}^2$

【考え方】長方形



【式】  $3 \times 4 = 12$

【答え】  $12 \text{ cm}^2$

【考え方】平行四辺形

6 グループで考  
えを発表する。  
(比較検討①)

話  
し  
合  
う

L: グループで考えたことを発表し  
ましょう。

T: 発表の順番を確認してから始め  
よう。

- ①全員が発表すること。
- ②わからない部分も伝えること。
- ③友達の考えと自分の考えを比べること。

・児童には2種類の三角形と方  
眼を配布する。

・作業を通して解決方法を考え  
させる。

◆見通しの立たない児童には、  
合同な三角形を2つ合わせる  
ように指示する。

(平行四辺形の求積方法を想起  
させる。)

◆説明が困難な児童には、ヒン  
トコーナーで図形を動かしま  
ながら考えるように促す。

・解決できた児童には、さらに  
簡単に求められる方法を考え  
させる。

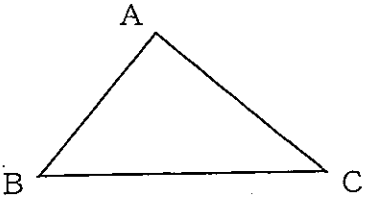
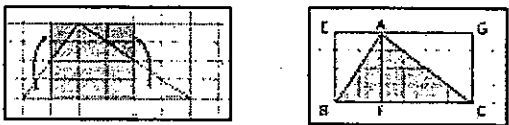

☆長方形や平行四辺形の形に置  
き換えることができたか。

☆自分の解決方法と比べ、相似  
点を発見するところできたか。

・説明の仕方が困難な児童には  
ノート友達に見せるよう指  
導する。

深める	7 全体で話し合 う。 (比較検討②)	T: いくつかの考えを全員で確かめ ましょう。 T: 考えを比べてみて、何か気付く ことはありますか。 C: 1回で形を変えられる方が、早 く面積を求めることができる。 C: マス目がなくても平行四辺形な ら面積を求められる。 C: 長方形だと計算は簡単だけど、 三角形をどのように変形できる かわからない。	・自分の解決方法について、筋 道を立てながら発表させる。 ・発表者と同じ考え方で解決し た児童に補足説明させる。  ◎自分の考えと異なる意見を認 め合うよさに気付かせる。
まとめる	8 本時の学習を まとめる。	L: 今日の学習をまとめましょう。  ※三角形の面積は、長方形や平 行四辺形に形を変えれば求め ることができる。	・本時の学習をもとに三角形の 公式を考えることを伝える。 ◎複数のまとめ方を提示し、各 自でまとめ方を選ばせる。
	9 本時の学習を ふり返る。	L: 本時の学習をふり返り、感想を ノートに書きましょう。	◎本時の学習をふり返り、感想 を発表し合う。

## 8 板書計画

<p>平行四辺形の面積の求め方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・形を変えた(長方形)</li> <li>・「底辺×高さ」</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>三角形ABCの面積は何<math>\text{cm}^2</math>でしょう。 方眼 1メモリ=1<math>\text{cm}^2</math></p> </div>  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>三角形の面積の求め方を考え、説明 しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・形を変えて考える。 (平行四辺形・長方形)</li> </ul> </div>	<p>長方形</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・切る。 ・辺BCに垂直な線で切る。</li> <li>・移動する。</li> <li>・2つの合同な三角形を増やす。 (増やした分を÷2)</li> </ul> <p>平行四辺形</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・真中で切る。 ・合同な三角形を増やす。</li> <li>・ひっくり返し移動する。 ・2つ分だから÷2</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>三角形の面積は、長方形や平行四辺形に形を 変えれば求めることができる。</p> </div>
---	--

## 7 中学校第1学年 学級活動学習指導案

- 1 題材名 「自分をみつめて」～新しい大陸に向けた航海～  
内容項目(2)イ「自己及び他者の個性の理解と尊重」

### 2 題材設定の理由

社会に出る前の小・中学校の教育を通して、人権の本質やその基礎をなす人間の尊厳や価値についての重要性、自他の人権を尊重することの大切さなどについてよく理解し、自他を人間として尊重しようとする態度を身に付けることが求められている。

そこで「新しい大陸に向けた航海」という教材を使い、権利に係る様々なものを示し、それらを必要なものと不要なものに分けることを通して、お互いの価値観について意見交換を行う活動を展開し、人権を身近で具体的なものとして認識させたい。また、人権の概念とその重要性について体感的に理解を深め、人権を尊重しようとする意欲・態度を養い、人権が尊重される社会を築いていく実践力の育成につなげたいと考え、本題材を設定した。

### 3 学級の実態

学級全体としては、明るく素直な生徒が多く、人を傷つけるような言動もほとんど見られない。その一方で、教科担任制の授業や部活動など、新しい環境にもだいが慣れ、個々の成長に大きな差が生じてきた。そのような中、様々な場面で優劣が見えてくると、これまでとは違う人間関係に悩む生徒も出てきている。そこで本題材を通して、話し合い活動を展開し共感的理解を深めながら、よりよい人間関係づくりの育成に努めたい。

### 4 評価規準

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団や社会の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
自分の考えや気持ちを、 相手にわかりやすく正確に 伝えようとしている。	現在の状況を踏まえ、他 の人の意見を聞くことがで きる。	グループでの話し合い活動 において、様々な意見を引 き出すことができる。

### 5 人権教育上のねらい(普遍的な課題「人間の尊重・価値の尊重」)

本校の研究主題である「お互いを認め合い、笑顔あふれる学校づくりを目指して～心が通い合い、潤いのある人間関係づくりの推進～」を実現させるためには、互いに認め合い、支え合う学級を目指していくことが重要である。そのためには、子供たちのコミュニケーション能力を高めるとともに、安心して自分の意見が言える温かい環境の下で子供たち相互の絆を深めることで、よりよい人間関係を築いていくことが大切である。

### 6 人権教育上の視点

- (1) よりよい人間関係を築くために、自分の考えを正直に伝えることができる。(態度・理解)  
(2) 相手の言動に関心を持ち、相手の立場や心情を踏まえることができる。(技能・理解)

- (3) 他者の考え方や感じ方には、違いがあることに気付くとともに、尊重することができる。  
(技能・態度)

7 事前指導

人権アンケートを実施し、アンケート項目の内容を真剣に考えることで、自己有用感や人権に対する意識を高める。

8 本時の学習指導

(1) 本時のねらい

- ・人により必要不可欠なものは、同じではないことを理解する。
- ・話し合い活動を通して、自己表現、合意の形成、互いの相違を受容できる。
- ・人権の大切さを理解し、人権を尊重しようとする意欲・態度を持つ。

(2) 展開

◎人権教育上の配慮

段階	学習活動・内容	指導上の留意点 ☆研究主題に迫るための方策 ◆評価	分
活動の開始	1 後出しジャンケンをする。 (1) 最初は教師に勝つように指示する。 (2) 次は教師に負けるように指示し、全員が負けるまでジャンケンを繰り返す。  2 課題をつかむ。 アンケートの結果発表と活動テーマの確認をする。  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 0 auto;">             アクティビティーに参加して人権とは何かを考えよう。           </div>	◆意欲的に活動に参加することができたか。  ・アンケートの結果発表を踏まえ、本時の活動に興味・関心を持つ。	5分
展開	3 アクティビティー「新しい大陸に向けた航海」を行う。  (1) 4～5人のグループを作り、アクティビティーを行い船外に捨てる荷物を話し合う。	・アクティビティーを実施する前に、話し合いのルールを確認させる。 ①他者の話に耳と心を傾けて聴く。 ②他者の話に批判やコメントをしない。 ③話し合うときは順番に話す。 ④他者との意見の違いを認め合う。 ・新大陸での生活に必要なものを残すように意識させる。 ☆自分の考えを班員に安心して話せる雰囲気をつくる。 ◎班での話し合いを通して、約束の大切さを理解させる。	35分

<p>展 開</p>	<p>(2) 新大陸に持ってきた荷物について、なぜ班としてその荷物を残したのか発表する。</p> <p>4 「欲しいものや必要なものと人権」の関係を考える。</p>	<p>◎他者との意見の違いを認め合い、他者の考えを否定することがないようにさせる。</p> <p>◆アクティビティーに意欲的に参加することができたか。</p> <p>◆自分の考えをわかりやすく伝えたり、他者の意見をしっかり聞くことができたか。</p> <p>☆班として残した荷物の理由を、班員が分担して発表する。</p> <p>◆話合いの中で、様々な意見を引き出すことができたか。</p> <p>☆新大陸に持ってきた荷物は、生きるために必要なものか考える。</p> <p>◎人権とは、すべての人がかけがえのない人間として必要なものであることを理解させる。</p>	<p>35 分</p>
<p>ま と め</p>	<p>5 ふり返しシートに自分の目標を記入する。</p>	<p>☆認め合い、支え合うことの大切さを理解させる。</p> <p>◆人権が尊重される社会にしていきたいという意識を持つことができたか。</p>	<p>10 分</p>

(3) 本時の評価

- ・話合い活動を通して、自分の考えを他の人にわかりやすく伝えることができたか。
- ・話合い活動の中で、他の人の意見を尊重し、様々な意見を引き出すことができたか。

9 事後指導

学校生活の様々な場面において、自分の考えを発表したり、他の人の意見を尊重できる場を増やしていく。

ふり返しシート

1年組 番 名前

- 最後に残ったものは、どのようなものでしたか。
  
- 捨てる決断をするのが難しかったものはどれですか？
  
- それを捨てた時にどのような気持ちがありましたか？
  
- 「必要なもの」と「欲しいもの」と「人権」はどういう関係にあるのでしょうか。
  
- 何を持っていき、何を捨てるか決めたとき、メンバーの意見が合わないことがありましたか？  
それはどんな時ですか。
  
- 今日のアクティビティー（活動）に出てこなかったもので、私には、これがないと生きていけないというものがありましたか？
  
- 必要なもの = 人権はだれにとっても同じでしたか？
  
- メンバーの意見が合わなかったとき、どのように解決しましたか。
  
- 話し合いの中で、自分の考えをしっかりと言うことができましたか。また、相手の意見をしっかりと聞くことができましたか。
  
- 自分の目標（これからの、あなたの目標や努力すべきことは何ですか。）

## 8 中学校第2学年 社会科（歴史的分野）学習指導案

### 1 単元名 「ヨーロッパ人との出会いと全国統一」（兵農分離と朝鮮出兵）

#### 2 単元設定の理由

##### (1) 単元観

本単元は、学習指導要領の内容項目（4）の「近世の日本」について学び、「ア 戦国の動乱、ヨーロッパ人来航の背景とその影響、織田・豊臣による統一事業とその当時の対外関係、武将や豪商などの生活文化の展開などを通じて、近世社会の基礎がつくられていったことを理解させる。」を目標としている。

内容の取扱いに関しては、「ヨーロッパ人来航の背景」については新航路の開拓を中心に取り扱い、宗教改革についても触れること、「織田・豊臣による統一事業」については検地・刀狩などの政策を取り扱うようにすること、対外関係については東南アジアなどとの積極的な貿易、キリスト教への対応、朝鮮への出兵などを取り上げることが示されている。

15～16世紀のヨーロッパ人による新大陸の発見と新航路の開削および宗教改革は、やがてヨーロッパ諸国によるアフリカや南北アメリカの植民地化へとつながっていった。ヨーロッパ諸国は世界貿易を展開し、16世紀半ばにはヨーロッパ人によって鉄砲とキリスト教が日本へ伝来することになる。

16世紀の日本は戦国時代の真ただ中であり、鉄砲の伝来はそれまでの戦い方を一変させた。この鉄砲の威力に注目したのが織田信長であり、天下布武を掲げ、全国統一へ歩みを進めた。織田信長はその後、本能寺の変で志半ばに命を落とし、後を継いだ豊臣秀吉が全国を統一していくことになる。この時代の大きな変化は、貴族や寺院などの勢力が急速に力を失い、武家を頂点とした新しい世の中の仕組みの基礎ができあがったことである。織田信長による仏教勢力の圧迫、関所の廃止、楽市・楽座の実施、豊臣秀吉による検地と刀狩などの政策が大きく影響している。

一方、文化の面では、戦国時代を生き抜いた大名や急速に成長した豪商の気風や経済力を背景に、豪壮・華麗な桃山文化が誕生した。また、南蛮貿易により天文学や医学、航海術、活版印刷術などの新しい学問や技術、衣服、ローマ字などが伝えられ、桃山文化に大きな影響を与えていった。この時代は、封建社会の発展にとって非常に重要な時期であり、江戸幕府による近代封建制、幕藩体制への確立へと移行する転換期として歴史上重要な意義を持っている。

##### (2) 単元に関わる生徒の実態

2年1組の生徒は、年度当初の授業から社会科に対する関心が高く、授業中の挙手や発表も積極的である。世の中の社会的な話題や歴史についての知識が豊富な生徒も多く、授業中の発言にそれらを結びつけて発表ができるなど、質の高い意見が活発に現れることがある。しかし、一方で難しい発問に対して挙手し、発表をする生徒は限られてしまうなど、クラス全体に学習で得た知識やそれを使って自分の意見を構築する力が広がっているとは言い切れない。生徒たちが持つ知識は断片的であり、事象相互の関連性や因果関係などをとらえ、理解できている生徒は少ないと思われる。また、人物とその業績などは知っていても、時代の順序や他の時代との違いをとらえておらず、時代の流れを「線」ではなく「点」としてとらえている生徒が多い。その結果、日本の社会が発展する様子を時代の流れとしてつかんでいくとは言い難く、また学習している時代がどのような時代であるかという時代観も十分に持つことができていない。

##### (3) 指導観

安土桃山時代では、中世から近世への時代の転換を大観させる必要がある。その中で、織豊政権について、幕藩体制へのつながりの観点から、検地や刀狩に見られる兵農分離政策を取り上げ、それらが中世荘園制度の崩壊や織豊政権による政治経済的な全国統一を果たした意義を理解させる。そこで、当時の農民支配の在り方や、荘園領主などの旧勢力との関係、統一過程に示された鉄砲やキリスト教などのヨーロッパの文化との接触とその影響に注目させる。また、豊臣秀吉の朝鮮出兵など、東アジアにおける国際関係を視野に入れた政権の支配体制の特質を理解させるとともに、それらが東アジアに与えた影響も考えさせる。

大名や都市の豪商などの気風を反映した桃山文化については、この時代以前の文化の担い手との比較を通して、彼らが幅広く国際性を獲得していったことや文化の中に後世まで受け

継がれたものがあることなどを時代背景と関連させながら理解させる。

### 3 学校課題との関連

本校では、「互いのよさを認め合い、よりよく生きようとする生徒の育成」一全教科、領域を通して人権意識を高め、磨き合う集団づくりを目指す一を研究主題としている。社会科としての研究テーマは、「個人の尊厳と人権の尊重の意義を広い視野から正しく認識し、国民主権を担う公民としての資質を養う。」である。

### 4 人権教育上のねらい (外国人)

外国人への人権問題について共感的に理解し、主体的に考えようとする態度を養う。

### 5 人権教育上の視点

- (1) 16世紀における朝鮮と日本の関係やヨーロッパと日本との関わりについて、多角的な視点から合理的に理解する。【知識】
- (2) 秀吉の朝鮮出兵を通じた日本と朝鮮との関わりやヨーロッパ文化の広がりなどを理解し、異なる文化を受容したり、違いを認めたりする態度を身に付ける。【態度】

### 6 単元の目標

- (1) 中世から近世にかけての政治や社会の大きな変化と文化の展開に対して関心を持つとともに、何が連続し何が変化したかを追究しようとする。(社会的事象への関心・意欲・態度)
- (2) ヨーロッパ人の来航や織豊政権の成立の学習を通して、歴史の流れと時代の特色を多面的・多角的に考察するとともに、中世から近世にかけての封建社会の歴史的変容について分析し、因果関係を考察する。(社会的な思考・判断・表現)
- (3) ヨーロッパ人の来航や、織豊政権期の政治や社会の大きな変化と文化の展開に関する文献や絵画などの資料を収集し、適切に選択して活用するとともに、追究し考察した結果をまとめたり、発表したりすることができる。(資料活用の技能)
- (4) ヨーロッパ人の来航や織豊政権期の政治や社会の大きな変化と、豪商などの生活文化の展開と特色に関する知識を身に付ける。(社会的事象についての知識・理解)

### 7 学習指導計画 (6時間扱い 本時5/6時)

時	単元名	目標	学習内容	評価規準			
				関・意・態	思・判・表	資・技	知・理
1	キリスト教と世界	ルネサンス期のヨーロッパでの思想、学問、技術の発達や宗教改革がその後社会に与えた影響を理解する。	・ルネサンス期以前と以後の絵画の比較から、ヨーロッパでの思想や学問、技術などの発展に気付かせる。	キリスト教や宗教改革が与えた影響に関心を持ち、意欲的に追究している。			キリスト教がヨーロッパに与えた影響や、宗教改革の概略とその影響を理解し、知識を身に付けている。
2	ヨーロッパと世界	ポルトガルとスペインの世界進出が、ヨーロッパ人をアジアに向かわせたことを理解する。	・大航海時代の世界情勢を示す地図、ヨーロッパ人がアジアに至った航路、香辛料(実物資料)を用いて、ヨーロッパ人がアジアに向かった目的や、海外進出の影響について気付かせる。	新航路発見の目的、ヨーロッパ人の世界進出の影響に関心を持ち、意欲的に追究している。			新航路発見の目的、ヨーロッパ人の世界進出による影響を理解している。



3	ヨーロッパ人の出会い	ヨーロッパ人の来航が日本や社会に与えた影響を大きく気付く。	・火縄銃（実物史料）や南蛮人渡来図屏風などから、ヨーロッパ人の来航（フランシスコ＝ザビエルによるキリスト教布教も含む）が、日本の社会に与えた影響について考えさせる。		鉄砲とキリスト教の伝来、南蛮貿易が日本社会に及ぼした影響について考察している。	「南蛮人渡来図屏風」に描かれた様子を取り、南蛮キリスト教の広がりの理解に活用している。	
4	織田信長・豊臣秀吉による統一事業	織田信長と豊臣秀吉による一動一静の政治・経済政策が、従前の社会を変えていくことを理解する。	・織田信長と豊臣秀吉の政策を比較させながら、これまでの戦国大名が行っていた政策との違いや、彼らの政策が持つ特質に気付かせる。				織田信長と豊臣秀吉による統一の過程やその政策、その知識を身に付けている。
5 本時	兵農分離と朝鮮出兵	検地を中心とした政策の中世契機となったこと、朝鮮出兵が豊臣政権の早期崩壊とともに、朝鮮の人々を害や負担を与えたことを理解する。	・豊臣秀吉の刀狩や検地がもたらした中世社会との違いについて、自分の意見をまとめ話し合う。 ・実施された政策によって、どのような影響があったのかをまとめ話し合う。	豊臣秀吉に関する日本と朝鮮での評価の違いに関心を持ち、朝鮮出兵について意欲的に追究している。	兵農分離の政策によって、社会の枠組みがどのように変化したのかを中世の社会と比較して考察している。		
6	桃山文化	武将の勢力や町衆の反力化の特色を理解する。	・室町文化（北山文化・東山文化）と桃山文化の建築、絵画、芸能などを比較させ、桃山文化の特色に気付かせる。また、同時期の南蛮文化や時代背景を踏まえて考えさせる。		桃山文化の特色を生活に根ざした文化の広がりや武将・豪商の経済力などの時代背景から考察している。	桃山文化の特色があるところをこの時代の代表的な史料と室町時代の史料を比較している。	ヨーロッパ人の来航によって生まれた新しい文化を理解し、その知識を身に付けている。

## 8 本時の学習指導

### (1) 本時のねらい

- ・豊臣秀吉に関する日本と朝鮮での評価の違いに関心を持ち、朝鮮出兵について意欲的に追究している。（社会的事象への関心・意欲・態度）
- ・兵農分離の政策によって、社会の枠組みがどのように変化したのかを中世の社会と比較して考察している。（社会的な思考・判断・表現）

(2) 本時の展開

◎人権教育上の配慮

段階	<p>○学習活動 *学習内容  <input type="checkbox"/> 予想される生徒の反応</p>	<p>○指導・援助と評価・手立て                      *評価の観点</p>	時間
導入	<p>○豊臣秀吉による検地（太閤検地）に関する史料の読み取り                      *太閤検地の際に使用された道具から、どのような目的で使用したのかを考える。</p> <p>*他の人の意見を聞き、自分の考えを深める。                      【導入に取り入れる史料】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・京枡</li> <li>・検地尺</li> <li>・検地帳（埼玉県の史料）</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">                     予想される生徒の反応                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・米の量を量る道具である。</li> <li>・年貢の量を記録する紙である。</li> <li>・長さを測るものである。</li> </ul> </div>	<p>○史料を見て、その資料から考えられる状況を個人で発表させる。                      *積極的に挙手して、発言ができている。（関心・意欲・態度）</p> <p>○正誤を見ているのではなく、自分の気づきを積極的に言えることが大切である旨を伝え、多くの生徒に自信を持って自分の意見を発表させる。</p> <p>○小学校で既習済みの内容なので、小学校での学習をふり返りながら考えるように助言する。また、現代の生活との関連を考えさせる。</p> <p>○発表後に、中世社会でも検地が行われていたことを話し、秀吉の頃に枡、ものさしの統一が徹底されたことに触れる。</p>	15分
展開	<p>○本日のテーマ・課題の設定                      *教師の発問から、本日の課題を考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">                     秀吉の政策は、農民にとってありがたいことだったのだろうか。                 </div> <p>○検地帳の読み取り                      *土地の良し悪し、面積、収穫高、耕作人が記載されていることに気付く。                      *農民が土地所有を認められていたことに気付く。                      *検地の様子を示す資料から、当時の生活を探る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">                     予想される生徒の反応                     <p>「ありがたい」派</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・土地が自分のものになる。</li> <li>・農業に集中できる。</li> </ul> <p>「ありがたくない」派</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年貢を払わなければならない。</li> </ul> </div> <p>○刀狩令の資料の読み取り                      *刀狩の持つ意義を理解する。</p> <p>○刀狩や太閤検地に対する評価                      *班での話合いや教師の話をもとに、秀吉の刀狩や太閤検地による影響を考える。</p>	<p>○室町～安土桃山時代の生活の様子が見える資料を見て、多面的、多角的に人々の生活や感情について考えさせる。→発問を工夫する。</p> <p>○4人グループで話し合わせる。</p> <p>○自分の意見を言えない生徒にも、発言の機会を与えるように働きかける。</p> <p>○班で資料を読み取り、考えた意見をもとに、太閤検地に対する意見を明確にさせる。</p> <p>○4人グループで話し合わせる。</p> <p>○個人での意見を明確にした後に、班で話合いをさせ、班での意見を</p>	30分

	<p>予想される生徒の反応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・太閤検地により複雑だった土地制度が整理され、土地の所有者や納税者が明確になった。また刀狩によって身分が明確化され江戸時代の土地制度や身分制度の基礎になっていった。</li> <li>・刀狩を行ったことで、農民による一揆や反乱の防止につながり安定した税収入につながった。</li> <li>・刀狩を行ったことで、農民による反乱を防ぐことができた。</li> </ul> <p>○朝鮮出兵の資料の読み取り *資料をもとに、朝鮮出兵について考える。</p> <p>予想される生徒の反応</p> <p>A：朝鮮出兵は、他国の主権や領土を侵す侵略行為であり、多数の人の命が失われた。その一方、有名な焼き物の発展は朝鮮出兵時に連行した朝鮮人によるものだった。</p> <p>B：朝鮮出兵でたくさんの人が亡くなり、豊臣秀吉は朝鮮半島の人たちから恨みを買った。</p> <p>C：朝鮮出兵でたくさんの人が亡くなった。かわいそう。</p>	<p>決定させる。</p> <p>○社会科の不得意な生徒に対して、周りの生徒がアドバイスして、一緒に考え、教え合うことで理解を深めさせる。</p> <p>*太閤検地、刀狩の史料や既習の内容を踏まえて、社会がどのように変化したのかを思考することができる。(思考・判断・表現)</p> <p>○4人グループで話し合わせる。</p> <p>○京都に残る「耳塚」の写真を提示し、どういうものであるかを考えさせる。</p> <p>○有田焼の写真を提示し、朝鮮から連れてこられた陶工が伝えた焼き物であることを理解させる。</p> <p>○現地的心声を基にした資料を活用し秀吉を侵略者としてみる見方を紹介し、立場の違いを考えさせる。</p> <p>*朝鮮出兵に対しての考えをワークシートに記述させ、発表させる。(関心・意欲・態度)</p> <p>【Aへの手立て】</p> <p>○秀吉(日本)の立場からの見方だけでなく、朝鮮の人々からの見方を押さえる。</p> <p>○社会科が得意でない生徒に対して、得意な生徒がアドバイスをしたり、一緒に考えたり教え合ったりさせる。</p> <p>【Bへの手立て】</p> <p>○朝鮮から連れてこられた人が伝えた技術が、日本の有名な焼き物の元になっていたことに気付かせる。</p> <p>○他の人の意見も積極的に聞いてみるように促す。</p> <p>【Cへの手立て】</p> <p>○写真について補足説明をし、朝鮮の人々の立場について関心を持たせるようにする。</p>	
<p>まとめ</p>	<p>○自己評価カードの記入 *本時の内容をふり振り返りながら、気付いたことや考えたこと、わかったことなどを具体的に記入する。</p>	<p>*本時の内容がどの程度理解されているかを確認する。 (思考・判断・表現)</p>	<p>5分</p>

## 9 高等学校第3学年 在り方生き方教育学習指導案

1 主題名 集団の意義・役割・責任

2 資料名 「心の扉が開くとき」(出典：埼玉県教育委員会「明日をめざして」)  
を参考にした自作資料

3 主題設定の理由

卒業を間近に控えた高校3年生に対し、卒業式で歌う歌の練習を通して集団の一員としての自覚を持ち、集団の意義を考えさせる指導資料を作成した。集団生活の向上には、自らの役割と責任を果たすことが重要であることを考えさせたい。

4 ねらい

集団の意義についての理解を深め、集団の中での自分の役割と責任について考えさせるとともに、集団の向上に努める態度を育てる。

5 人権教育上のねらい(普遍的な課題「共感と連帯感」)

様々な考えを持つ集団の一員としての自覚を持ち、よりよい集団をつくるために他者の考えの理解に努めつつ自己の意見や気持ちを適切に表現し、積極的に集団の意思決定に参加・参画しようとする態度と技能を育成する。

6 人権教育上の視点

- (1) 自己価値及び他者の価値を感知する感覚。(価値・態度)  
 (2) 積極的に意思決定に参加・参画しようとする意志や態度。(態度)  
 (3) 意見や気持ちを適切かつ豊かに伝え合い、わかり合える技能。(技能)

7 展開

◎人権教育上の配慮

段階 時間	学習活動(○教員の主な発声)	指導上の留意点
導 入 5分	1 「旅立ちの日に」の歌詞を読む。 ○この歌を知っていますか。 ○どのような時に歌いますか。 ○この曲にはどのような思いが込められている と思いますか。	・「旅立ちの日に」にどのような 思いが込められているかを考え させる。
展 開 ①	2 【エキスパート活動】 ○これから「旅立ちの日に」の曲にまつわる資 料を配布します。	【エキスパート活動】 ・資料A・B・Cを配布する。 ・各エキスパートで調べたことを

<p>展開 ① 10分</p>	<p>○資料は全部で3種類あり、人によって違うものが配られます。</p> <p>○各々に配られた資料を読み、設問に答えてください。</p> <p>・各自が資料を読み、隣の人と協力して課題について考える。</p>	<p>その後、別の班で報告することを伝える。</p> <p>◎各々の登場人物の心情を読み取り、各々の人物の意識と態度を考えさせる。</p> <p>・各自に配布された資料をしっかりと読み込ませる。</p> <p>・各自が読み取ったことを、隣の人と意見交換し、理解を深めさせる。</p>
<p>展開 ② 30分</p>	<p>3 【ジグソー活動】</p> <p>○これからグループで話し合いをします。グループ毎に机を向かい合わせてください。</p> <p>○各々の立場に立ちながら説明してください。</p> <p>・エキスパート活動をもとに一般生徒、実行委員、先生の立場について説明をする。</p> <p>○卒業式当日、合唱が成功した理由は何だと思えますか。</p> <p>・「裕美」「翔」「先生」各々の立場から、卒業式の歌が成功した理由は何かを話し合う。</p> <p>【クロストーク】</p> <p>・各グループで話し合った内容を、学級全体で発表する。</p>	<p>【ジグソー活動】</p> <p>・グループ編成については、各エキスパートの混成となるように配置する。</p> <p>◎お互いの資料を見せ合うのではなく、自分自身の言葉で説明させ、相互理解を図る。</p> <p>◎三者の行動を十分理解させ、適切な意志の伝達方法とはどのようなものか考えさせる。</p> <p>【クロストーク】</p> <p>・話し合いの様子から、授業者が発表者を指名しても可。</p> <p>◎発表者への傾聴を徹底させる。</p>
<p>終末 5分</p>	<p>4 ワークシートをまとめる。</p> <p>○君たちの卒業式を成功させるためには、これから何をしていけばよいと思えますか。</p> <p>○あなたは、どんな想いで卒業式を迎えたいですか。</p>	<p>・卒業に向けた残りの高校生活について、教員の思いを語る。</p> <p>◎今後の学校生活への参画について考えさせる。</p>

※この指導案は知識構成型ジグソー法を用いた協調学習授業を意識して作成したものです。

## 8 評価

- (1) 積極的に話し合いに参加し、エキスパート活動やグループ学習で協力することができたか。
- (2) 登場人物の立場に立って考え、自分の学校生活を省みることができたか。

- ① 12月序盤、卒業式に向けた歌の練習が始まりました。
- ② 私たち3年生は、卒業式実行委員会で「旅立ちの日に」を歌うことを決めました。実行委員長になった私は、各クラスの委員のみんなと協力して、思い出に残る最高の歌を歌いたいたいと思っていました。私自身もピアノの伴奏を引き受け、責任を感じながらもわくわくしていました。
- ③ 私はクラスで放課後に合唱の練習をしようと呼びかけました。3年生最後の卒業式を盛り上げたい…そう思ったのに、みんな歌ってくれない…。私は焦りました。このままでは本番で絶対に良い歌は歌えない。私は歌ってくれない人を注意もしたし、何度も何度も、上手くないところを練習し直しました。私としては良い合唱を作るために一生懸命やったつもり…。でもそのときひそひそと話す声を聞いてしまったんです。  
「だるいな」「だよな」
- ④ 私は我慢できず、つい怒鳴ってしまいました。「全然歌わないし、やる気ないならとっとと帰りなよ！」それを聞いて帰っていく数人の男子たち…。残っている人たちも戸惑っている様子で、もう練習どころではありませんでした。友達の何人かがなぐさめに来てくれたけど、私はそんな自分が情けなくて、ただ泣くことしかできませんでした。「実行委員長失格だ…」他のクラスの委員の子や、クラスのものにも申し訳なくて、私はもうどうしたら良いのかわからなくなってしまいました。
- ⑤ 放課後、先生に相談しに行きました。そうすると先生は、「リーダーは絶対あきらめず、みんなに笑顔で呼びかけること」「仲間を絶対に責めないこと」「協力してもらえよう、話し合っって練習の工夫をすること」という3つのアドバイスをくれました。笑顔で呼びかける…昨日の自分が忘れてたことだな、と思いました。私はアドバイスをもとに、もう一度クラスの人たちと一緒にやってみようと思えました。
- ⑥ 時は過ぎ、1月23日。この日は3年生にとって卒業試験前に学年全体で卒業式に向けての歌の練習をする最後の日でした。そのため、私はとても緊張しました。「みんな歌ってくれるかな…」そんな不安を抱えながら、ピアノを弾き始めました。だけど、みんなの声はあまり聞こえない…。指揮をする子も難しい顔をしていて、もうダメだと思いました。最後の最後に、みんなで思い出に残る歌を歌いたいたい…その夢は叶わないと思ったそのとき、先生が練習を止めて言いました。  
「実行委員は前に出てきて、なぜ自分が実行委員をやろうと思ったのか、今どんなことを思っているのか話さない。」
- ⑦ 全体練習を中断して、実行委員たちが前に出てそれぞれの気持ちを話していきました。最後に実行委員長の私の番。みんなの前で話すことに若干とまどいながら話し始めました。

「私は途中、本当に学校が嫌になり、退学を考えました。でも今こうしてみんなと一緒に卒業式を迎えようとしています。それは支えてくれたみんなの、仲間のおかげでした。3年間自分の事しか考えられなかったけど、最後に何かやり遂げたいと思ったんです。最後だからみんなで力を合わせて、良い歌を歌って卒業したい。そのためにみんなの力を貸してください！」

- ⑧ 話し終わるといつの間にか目から涙がこぼれていました。何度も言葉がつまってしまったときに「頑張れ！」と声をかけてくれたことが嬉しくて、その言葉でまた頑張ろうと思えました。本当に私は最後までみんなに支えてもらってるんだな、と感じました。
- ⑨ 話し終えた後ステージの上から、ふと自分のクラスの方を見ました。先月の練習中、私とケンカして帰ってしまった翔君は、じっと私の事を見つめていました。目が合うと、何か言いたそうな、そんな顔をしていました。私は「頑張ろう」という意味をこめて、うなずきました。すると翔君もそれに応えるように、うなずいてくれました。
- ⑩ その後の合唱練習は、さっきまでとは別物のようで、気持ちの入った大きな歌声が体育館に響き渡りました。ピアノを弾いている私も、なんだか楽しく、嬉しい気持ちで伴奏ができました。
- ⑪ 卒業式当日。練習した「旅立ちの日に」は再び体育館に響き渡り、最高の卒業式を迎えられたと思います。挫折しそうになって、つらいこともたくさんあったけど、あきらめなくてみんなと一緒にやってきて良かった…そう思える卒業式でした。

Q1 裕美は練習でみんなが歌わなかったときに、どんな気持ちになりましたか。

Q2 裕美は「帰らなよ！」と怒鳴ってしまった後、どんな気持ちだったのでしょうか。

Q3 裕美は先生からアドバイスを受けて、どんなところを改善しようと思いましたか。

Q4 卒業式の歌が成功した理由の1つとして、裕美のどんなところが良かったからでしょうか。

① 3ヵ月後は卒業式。卒業式に学年で「旅立ちの日に」を歌うことになった。クラスでは12月から放課後に集まって練習をすることになっていた。俺は歌が苦手だし、みんなで一緒に歌うのは恥ずかしい。それに、正直自分が歌っても歌わなくてもあまり変わらないだろ、と思っていた。これまでも練習の最中は歌っているフリをしてごまかしてきた。裕美が何度も何度も歌わない人たちに歌うよう注意していることに対して、思っていたことをぼそっと友人にこぼした。

「だるいな」それに対して、「だよな」と友人が同調した。

② そんなに大きな声で言ったつもりはなかったけど、裕美には聞こえてしまったようだった。裕美はこちらに向かって怒鳴った。

「全然歌わないし、やる気ないならとっとと帰りなよ！」

③ 周りがシーンと静まり、気まずくなった俺たちは「帰ろうぜ」と言って、言われたとおりそのまま帰った。なんだかすっきりしない思いを抱えた俺たちは、誰からともなく「ハンバーガー食べに行こうぜ。」と言って寄り道をしていた。食べながら実行委員長の裕美の話題になり、「なんであいつあんなにがんばってんの?」「アツいよねー。」「実行委員長は大変だな!」と笑いながら話していた。「自分には歌なんて関係ないし、歌いたいやつが歌えばいい。」そんな気持ちで友達と意気投合し盛り上がっていた。そして、話題が変わり、いつの間にか19時を回っていたので家に帰った。

④ その帰り道に学校の近くを通ると、校門の前で先生と実行委員たちがなにか話し合いをしているのが見えた。「こんな時間まで何をしていたんだろう。」と疑問に思いながらも、先ほど怒られた裕美の姿が見えたので少し後ろめたい気持ちになり、気づかれないように回り道をして帰った。

⑤ またある日には、放課後の練習がなかったので俺は早めに帰ろうと思った。帰り道の途中で教室に財布を忘れてきたことに気づいて、あわてて学校に戻った。教室に近づくと音楽室から何か、ピアノの音が聞こえるなと思った。…「旅立ちの日に」だ。きっと裕美が練習してるんだろうな、と思いながら教室で財布を見つけて、学校を出た。

⑥ それから時は過ぎ、1月23日。実行委員長の裕美から体育館に全員で集まって歌の練習をするという話があった。そのとき、以前裕美に怒鳴られたことを思い出し、「また歌うのか、嫌だな。」という気持ちが湧き上がった。体育館に移動し、学年全体が集合して練習が始まった。指揮に合わせて伴奏を弾き始める裕美。みんなことごとくちゃんと歌ってなかったし、俺はまた歌うフリをして終わるのを待っていた。すると、先生が練習を止めて、

「実行委員は前に出てきて、なぜ自分が実行委員をやろうと思ったのか、今どんなことを思っているのか話さない。」と言った。



- ⑦ 全体練習を中断して、実行委員たちが前に出てそれぞれの気持ちを話し始めた。実行委員たちの考えや本音を聞いて、初めて彼らの気持ちがわかった。同時に「なんであいつはあんなにがんばっているのか」「どうしてそこまでアツくなれるのか」という自分が持っていた疑問が解決され、聞いている側もすっきりした気持ちになった。そして、最後は実行委員長である裕美の番だった。
- ⑧ 「私は途中、本当に学校が嫌になり、退学を考えました。でも今こうしてみんなと一緒に卒業式を迎えようとしています。それは支えてくれたみんなの、仲間のおかげでした。3年間自分の事しか考えられなかったけど、最後に何かやり遂げたいと思ったんです。最後だからみんなで力を合わせて、良い歌を歌って卒業したい。そのためにみんなの力を貸してください！」
- ⑨ 練習に真面目に取り組まなかった自分に対して怒鳴ってきた裕美。夜遅くまで話し合いをし、成功させようと努力した実行委員たち。涙を流しながら話す様子を見て、みんなの真剣さが伝わってきた。
- ⑩ 裕美の話が終わった後、先月練習中にケンカをしてしまったこと…いや、一生懸命やろうとしていた裕美を俺が傷つけてしまっていたことに気づいた。「ごめん」という気持ちでステージの上の裕美を見つめていると、ふと裕美と目が合った。こちらを見てうなずく裕美に「俺もやるよ」という気持ちをこめてうなずき返した。その後の合唱練習に、俺は全力で取り組んだ。恥ずかしい、面倒くさいという気持ちはもうなく、頑張っている人たちを応援したい、協力したい、一緒に成功させたいという気持ちで歌った。それは俺だけじゃなく、学年全員が同じ気持ちだったと思う。
- ⑪ 卒業式当日。練習した「旅立ちの日に」が再び体育館に響き渡った。最高の卒業式を迎えられたと思う。あの時、自分が一生懸命できたのは、誰より努力して、みんなのことを思って行動していた裕美や実行委員の人たちのおかげだったと思う。学校生活の最後にみんなの心がひとつになることを経験できて、今は「やってよかったな。」という達成感と、実行委員たちへの感謝の気持ちでいっぱいだ。

Q1 歌の練習に乗り気でない翔は、裕美に注意されてどんな気持ちで帰ったのでしょうか。

Q2 裕美や実行委員たちが遅くまで残って「旅立ちの日に」を成功させようとしている姿を見て、翔はどう思ったのでしょうか。

Q3 翔は、どうして一緒に歌おうという気になったのでしょうか。

Q4 卒業式の歌が成功した理由の1つとして、翔のどんなところが良かったからでしょうか。

- ① 私の学校では、卒業式の日には3年生全員で出し物をするのが恒例となっている。11月中旬旬に開かれた卒業式実行委員会では、実行委員長が裕美に決まり、出し物も「旅立ちの日」に」を歌うことが決まった。裕美は、在学中に何度か学校が嫌になり、挫けそうになりながらも、ここまで精いっぱい頑張ってきた生徒だ。進学予定の彼女は、これから推薦入試に向けて動き出すところだ。彼女なら困難なことがあっても乗り越えられるだろうと、私は思っていた。
- ② 裕美を中心とした実行委員から、12月からの放課後に歌の練習をしたいとの相談があった。私は、二つ返事でOKをし、「頑張っていていこう」と声をかけた。と、同時に、「いよいよ大変なころだな…」と思った。というのも、この時期の生徒たちは、自分の進路が決まり学校生活なんて卒業まで軽く流せばいいやと思っている生徒や、反対に進路が決まらず自分のことにしか目がいかなくなっている生徒が多くいるからだ。
- ③ 12月から始まった放課後の歌の練習では、やはり、生徒たちの歌声が職員室に聞こえてくることはほとんどなく、実行委員の生徒たちがやきもきしている様子が目に映った。実行委員の生徒たちは大丈夫かなと思いつつ、他の生徒たちにどんな声かけをしたらいいかなとも考えていた。
- ④ そんなある日の放課後、廊下を歩いていると、裕美の怒鳴り声が聞こえてきた。  
「全然歌わないし、やる気ないならとっとと帰りなよ！」  
私は「やっぱりか…」とっていると、数人の男子生徒が足早にクラスから出ていく姿が見えた。その中に翔の姿があった。翔は、クラスの中で活発な方ではあるが、面倒くさがりで、ときどき他の生徒とトラブルを起こすこともある生徒だ。希望していた製造関係の〇〇会社に内定をもらい安心してしまったせいも、ここ最近なんとなく遅刻や欠席が目立つ。
- ⑤ その後、職員室に裕美と他の実行委員が相談をしに来た。クラスのみんが真剣に歌ってくれないこと、どんなに声をかけても協力してくれないこと、先ほど怒鳴ってしまい男子の何人かが帰ってしまったこと…。みんな今にも泣きそうな表情で、一人一人悩みを伝えてくれた。話を聞いた後、「リーダーは絶対あきらめず、みんなに笑顔で呼びかけること」「仲間を絶対に責めないこと」「協力してもらえよう、話し合っって練習の工夫をすること」という3つのアドバイスをした。気づくと時計の針は、19時を過ぎていた。
- ⑥ 私は裕美たちを校門の前まで送り、「もう1度あきらめずに頑張ろう。あきらめずに真剣に向き合えば、きっとみんなもわかってくれる」と伝えた。彼女たちは笑顔で返事をしてくれた。と、その時、校門の方に向かってくる自転車がUターンしていくのが見えた。翔だ。きっと私たちのことが見え、ばつが悪くて引き返したのだろう。
- ⑦ それから年が明け、卒業試験前の1月23日。この日は、学年全体で卒業式に向けて歌の練習ができる最後の日。この日まで裕美たち実行委員は苦労しながらも、クラスでの練習を

頑張ってきた。けれど、なかなか上手くクラスをまとめることができてはいないようだった。裕美がピアノを弾き始めた。全体の声は小さく、決して良い合唱とは言えなかった。裕美も指揮者の生徒も険しい顔をしていた。私は、練習を中断させた。

「実行委員は前に出てきて、なぜ自分が実行委員をやろうと思ったのか、今どんなことを思っているのか話さない。」

⑧ 実行委員一人一人が、涙ぐみながら自分の思いを伝えていった。はっと気づかされたような顔をする生徒が増えていく。最後に、実行委員長の裕美の番だ。

「私は途中、本当に学校が嫌になり、退学を考えました。でも今こうしてみんなと一緒に卒業式を迎えようとしています。それは支えてくれたみんなの、仲間のおかげでした。3年間自分の事しか考えられなかったけど、最後に何かやり遂げたいと思ったんです。最後だからみんなで力を合わせて、良い歌を歌って卒業したい。そのためにみんなの力を貸してください！」

⑨ 裕美は、泣きながら話し終えた。ふと翔の方を見ると、裕美を見つめていた。二人はうなずきあい、お互いのわだかまりが解けたようだった。その後の合唱練習は、さきほどまでとは別物のようで、気持ちの入った大きな歌声が体育館に響き渡った。

⑩ 卒業式当日。3年生の合唱する「旅立ちの日に」は再び体育館に響き渡り、たくさんの人に大きな感動を与えた。裕美も翔も、きっと大きく成長することができたと思う。リーダーとして人を引っ張ることの難しさ、リーダーを支える人間の思いやり、そういったことを社会にでる生徒に少しでも学んでもらえたのではと思う。

Q1 職員室に裕美と他の実行委員が相談をしに来たとき、どんな気持ちでアドバイスをしましたか。

Q2 校門の前で、翔がUターンしていく姿をみたとき、どんな気持ちだったでしょうか。

Q3 練習最後の日、どんな気持ちで合唱練習を中断させましたか。

Q4 卒業式の歌が成功した理由の1つとして、先生のどんなところが良かったからでしょうか。

## ワークシート

3年 組 番 氏名 \_\_\_\_\_

**ステップ1** ペアワーク (隣の席) で気付いたことを書きましょう。

**ステップ2** グループワークで報告する内容を準備しましょう。

**ステップ3** グループワークで気付いたことを書きましょう。

**ステップ4** あなたは、数か月後の卒業式を成功させるために何をしていけばよいですか？

**話し合いを終えた後に…**

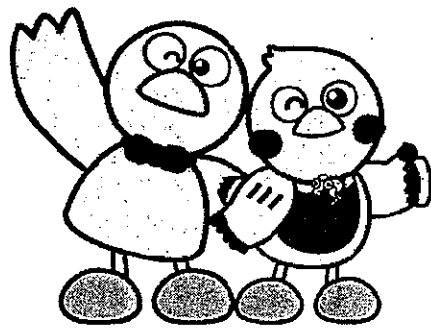
☆あなたはどんな想いで卒業式の日を迎えるのでしょうか。思うことを書いてください。

# 人権教育学習指導案集

～平成27年度の実践～

発行年月 平成28年3月

発行・連絡先 埼玉県教育局市町村支援部人権教育課  
さいたま市浦和区高砂3-15-1  
TEL 048-830-6892



埼玉県のマスコット コバトンとさいたまっち